テルモロッシ
エコサーモ６０００・８０００サーモコンフォート
取扱説明書

THERMOROSSI “ＣＥ”マーク安全基準適合宣言

以下の基準にしたがっています。

ヨーロッパ基準	ＥＥＣ　７３／２３	その後の修正	９３／６８
	ＥＥＣ　９８／３７		
	ＥＥＣ　８９／３３６	その後の修正	９３／６８　ＥＥＣ
			９２／３１　ＥＥＣ
			９３／９７　ＥＥＣ

テルモロッシ社　（住所：Via　Grumolo　４－ARSIERO（VI）, Italy）の責任において、エコサーモシリーズのストーブは、CE マークの要求する安全基準に基づいて設計、製造されています。

この宣言は、エコサーモシリーズすべての製品に該当します。

１．はじめに

１．１　　ご注意

- この取扱説明書には、重要な注意事項と、製品の取りあつかいかたを示しています。本書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
- 本書をお読みになったあとは、お使いになるかたがいつでもご覧になれるように、必ず保管してください。
- この製品は、本書に記載されている使用方法にしたがって使用してください。それ以外の使い方や、誤った使い方をすると危険です。その際生じた事故や故障は、すべてお客様の責任となります。
- この製品の設置、メンテナンスおよび修理は、専門の技術を持った業者の手で、規格に沿った説明書に従ってとりおこなってください。部品交換が必要な際は、必ず正規の部品を使用してください。
- 誤った設置の仕方や、ずさんなメンテナンスによるけがや器物破損が生じた場合、メーカーはいかなる責任も負いません。
- 製品のクリーニングやメンテナンス作業を行う前には、必ずすべてのスイッチを「切」の状態にし、電源プラグを抜いてください。
- この製品は、防火設備の整った建物に設置し、電源や排気口をきちんと確保してください。
- この製品を売却または譲渡する時は、この取扱説明書を必ず製品に附属してください。

１．２　安全のために

- 警告  この表示の注意事項を守らないと、死亡や大けがなどの重大な人身事故の原因となります。
- 注意  この表示の注意事項を守らないと、製品の破損や故障の原因となります。
- 重要事項  この表示は、製品を使用の際、とくに重要な事柄を示しています。

１．３　快適なご使用のために

・　この取扱説明書は、製品を正しく使用するために不可欠なものです。ご使用の前に、熟読されることをおすすめします。

・　正しい設置、使用、メンテナンスを行うために、必ずこの取扱説明書を熟読してください。

・　お客様によって行われた改造は、すべてお客様の責任となります。使用前、使用中の設置と装置の効果的な運転を維持するための保守に必要な操作は、お客様の手にゆだねられます。

・　一般的な注意事項

この製品は、かならず PE アース（EEC７３／２３スタンダード、EEC９３／９８スタンダードに適応。低電圧電気機器用）に接続してください。設置前に、アース回路が有効であることをお確かめください。電源ケーブルの容量が充分であるかをご確認ください。本製品は下記規格に準じております。
- European directive 73/23/EEC - Standard CEI EN 60204 - European directive EN 14785 : 2006
- Standard CEI 61/50 - European Directive 89/336/EEC - European Directive 93/68/EEC
- Standard CEI 64-8 (IEC 364)

この製品は、正しい電圧のもとで使用してください。
この製品本体は、220-240V,　50Hz.で作動します。10 パーセント以上高い電圧で使用すると、運転が正常に行われないか、もしくは破損のおそれがあります。日本で使用する場合は 220／100Ｖの変圧トランスを介して使用します。

１．４　本製品の移動と保管

・　梱包について
ストーブ本体と外装部分は、製品保護のため別梱包になっています。

・　製品を動かすときの注意
ストーブ本体を移動するときは、必ず垂直状態のまま台車に乗せて動かしてください。その際衝撃を与えないように十分注意してください。ガラスのドア部分は破損しやすいので、特に気をつけてください。

・　保管

ストーブ本体およびカバーは、湿気やカビのない屋内で保管してください。直射日光や
風雨を避け、また、本体を直接床に置かないようにしてください。

・　梱包を開けるとき

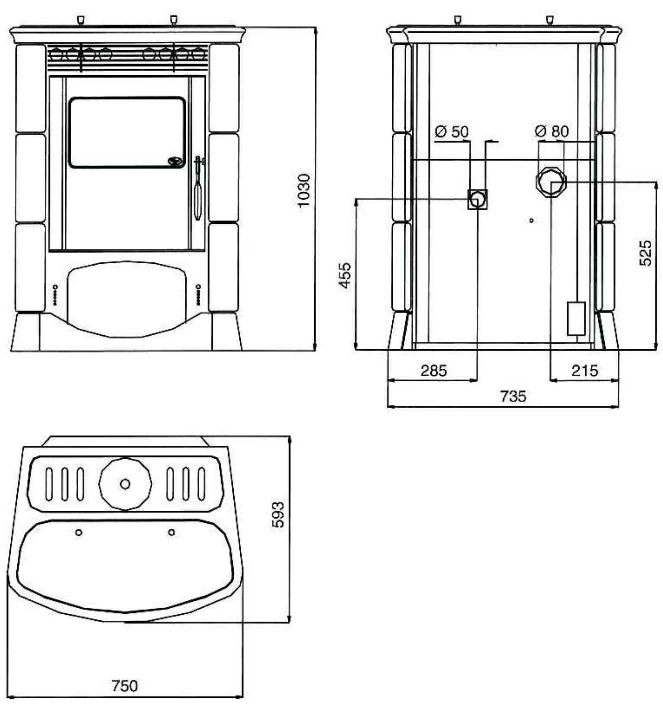
ストーブ本体を設置場所のそばまで持ってきてから段ボールの保護材をはずしてください。
カバーを開梱し、緩衝材をはずします。

保管するときは、必ず梱包材、緩衝材で保護してください。

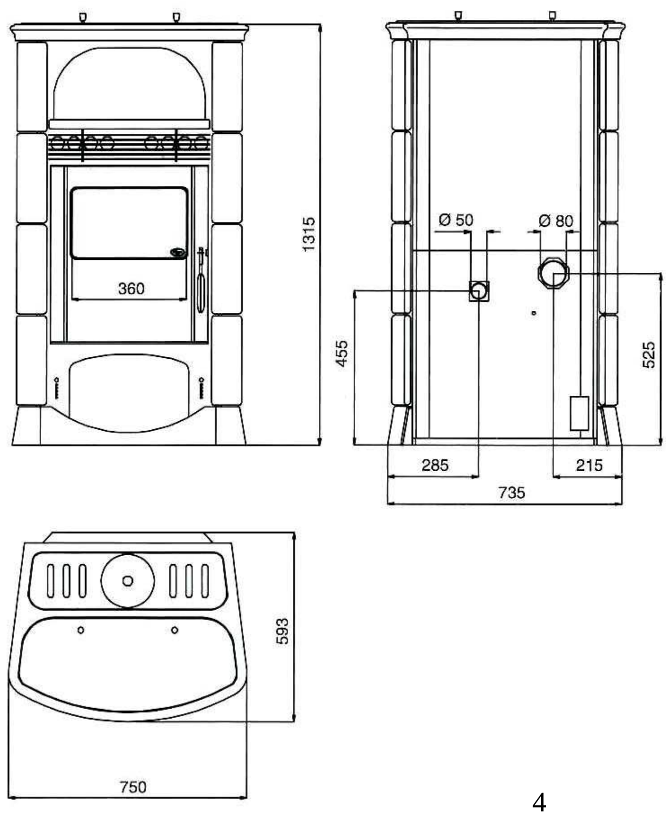
2．主な仕様

技術的特性		Ecothrmo　6000・8000
出力（DIN18891 規格に基づく） （最小／最大）	Kw ＝Kcal／hr	3.1／11 2,670／9,490
暖房可能容積 ＝暖房面積（天井高さ３mとした場合）	㎥ ＝㎡	324 108
最大燃焼効率	%	90
消費電力　（最小／最大）	Watt	65／130
排気ガス量	g/s	13.2
最小排ガス吸引圧力	mbar	0.12
高温遮断サーモスタット		●
圧力スイッチ（排気センサー）		●
排気ガス管の直径と位置	mm	80　後面
燃焼空気取り入れ口　直径	mm	50
ペレットタンク容量 6000/8000	kg	23/53
ペレット消費量　（最小／最大）	kg／時	0.9／2.3
燃料の制約	DIN51731 （HP2）	水分 8%以下の白木が理想的 直径 6〜10mm×長さ 1〜2cm 4170Kcal/Kg=17500~19000KJ/Kg 比重 1.0〜1.4
燃焼持続時間＝燃料充填までの時間 （最小／最大）	時間	25／10（6000）58／23（8000）
灰皿容積	d ㎥	10.4
リモートコントロール		自動運転・プログラム機能付
強制送風		5 段階
温度調節		4 段階
最低騒音	db	38
本体重量（タイル／鋼板）	kg	206/186(6000)　233/207(8000)
外形サイズ 6000/8000　w×d×h	mm	750×593×1030/750×593×1315

ET6000



ET8000



３．基本的な説明

３．１　装置の概要

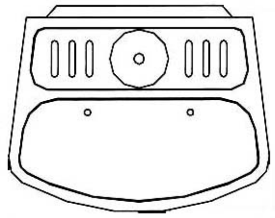
- このストーブは、暖房能力と、使いやすさの両面において、大変優れた製品です。
- ストーブの燃料である、おがくずを圧縮したペレットは、運転時に手でくべる作業をする必要がありません。燃焼段階においてもすべてオートマティックです。
- 騒音を最小限に押さえた送風ファンの使用によって、効率よい暖房効果が得られます。

３．２　ペレット燃料について

- ペレットは、圧縮されたおがくずまたは木の切りくずで、直径6mm、長さは約１５mm です。水分の含有量は８%以下、熱量は４０００～４５００Kcal/kg で、その密度は６２０～６３０Kg/㎥ です。
- 標準的な木材は、水分の含有量１０～２０%におよび、熱量は２５００～３５００Kcal/kg と小さいので、この製品への使用には適しません。

注意

上記に特定した燃料以外のものを使用した場合、保証はいたしかねます。



３．３　ペレットタンクについて

- ペレット収納器は、ストーブの上面奥にあります。
- 燃料の充填口を開けるときは、ストーブ上部奥のプレートをはずしてください。
- エコサーモ６０００は２３kg、８０００は５３kg まで燃料を充填することができます。

４．組み立て

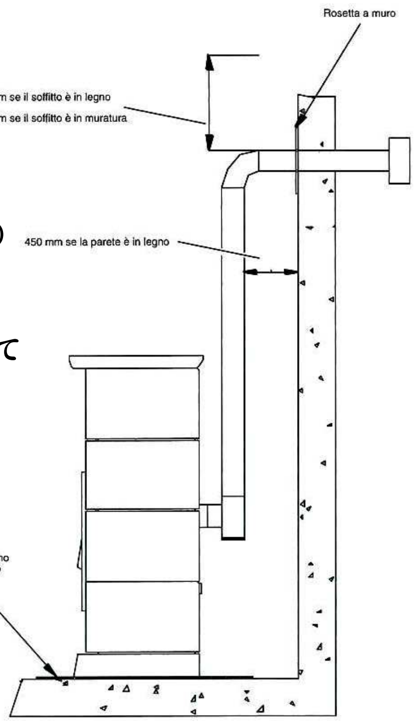
４．１　ストーブの設置場所

- まず、この取扱説明書の１章の「１．１　ご注意」の項をよくお読みください。設置するフロア面がストーブの重量に充分耐えられるかどうか、設置前によくご確認ください。
- 警告：極端に風通しの悪い部屋や、換気のできない部屋には絶対にこのストーブを設置しないでください。

このストーブは１時間あたり 35 立方メートルの新鮮な空気を必要とします。また、燃焼に必要な空気は本体背面のパイプから供給されます。内部から空気が出てくる発生する場合に備えて、ストーブを正しく運転し、きちんと機能しているかどうかを常に確認してください。室内の換気とペレットの燃焼を同時に行うと、有害な排煙が室内に逆流する危険性があります。このような事態を未然に防ぐためには、禁止装置（換気装置とエコサーモの切り替え器）のご使用をお勧めします。

かべや、周辺の家具などから充分な距離を取って設置してください。カーテンや布張りソファ、木製の家具など可燃物には特に余裕を持って距離を取ってください。

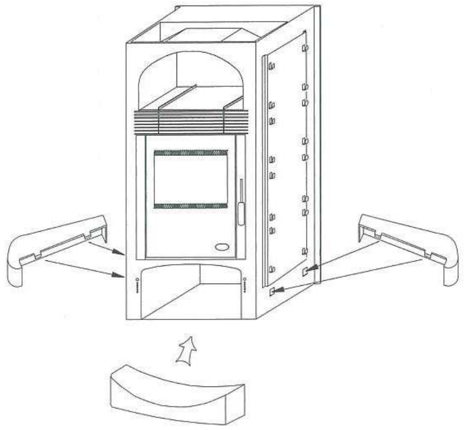
ストーブ側面および背面は、最低限２０cm以上の隙間を確保してください。またストーブ前面は、最低８０cm以上の間隔が必要となります。カーペット敷など可燃性の床、またはフローリングの床の場合は、金属製の保護シートなど不燃性の保護材を床に敷いてから設置してください。保護材は、ストーブ前面より５０cm以上、両側面より３０cm以上の大きさが必要です。



注意：天板のコントロールパネル（操作盤）には無理な力を加えないで下さい。外力による破損、故障について保証出来ません。

排煙パイプの取り付けについては、本書の８章をお読みください。

４．１．1　　ストーブ本体部分の組み立て



・　脚部の組立
ストーブを設置場所に置いて、右図に従って行います。
固定します。その後、枠とタイル天板を組み立てます。

４．１．２　セラミックカバーの取りつけ

・　本体脚部の組み立てが完了したら本体側面に８箇所（6000 は６箇所）へセラミック部品を取り付けます。このセラミック部品は工業技術と伝統工芸の両面において大変優れた製品です。最新の CAD システムによりデザインされた鋳型を使用し製造工程および釜入れ作業はすべてコンピューター制御によって管理され、セラミック本来の芸術性を損ないません。（むしろ高めているといえます。）

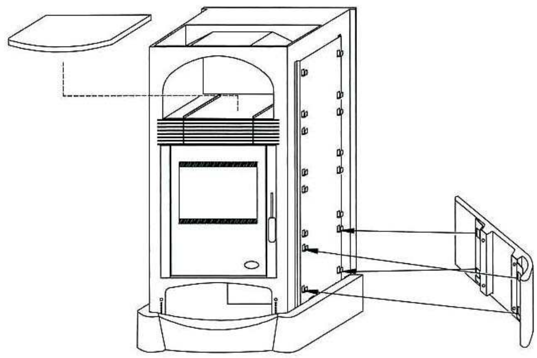
専門家によって配合された完璧なバランスの土、水、そして火のコンビネーションにより作り上げられたこの製品は、ひとつとして同じものがない、ユニークで個性的な仕上がりになっています。そして、1000 度以上の高温で火入れされることにより微細な粉は釉薬をかけたセラミックになり、それぞれが微妙に異なるフォルムやカラーを持った製品に仕上がります。

これらの違いは鋳型内のわずかな亀裂と同じでセラミックの品質にはまったく影響ありませんし、かえってこの製品をユニークなものにしています。

破損を避けるために、このセラミック部品は別梱包されています。



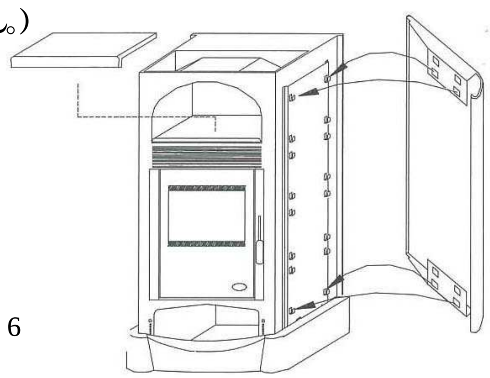
警告：この組み立て作業は、必ず有資格者の手で行って下さい。



セラミック部品にはストーブ本体に取り付ける
ための張り出しがついています。右図のように
本体側面にセラミックを取り付けて下さい。
（8000 にはコンロスペース用皿が付属しています。）
まずこのセラミック製皿（図の左側）を取り付けます。
そして側面のセラミックは下部から上部へと取り付けを
行って下さい。

４．１．３　メタルカバーの取付け

ステンレス板の取り付け（セラミック板の場合は含まれません。）



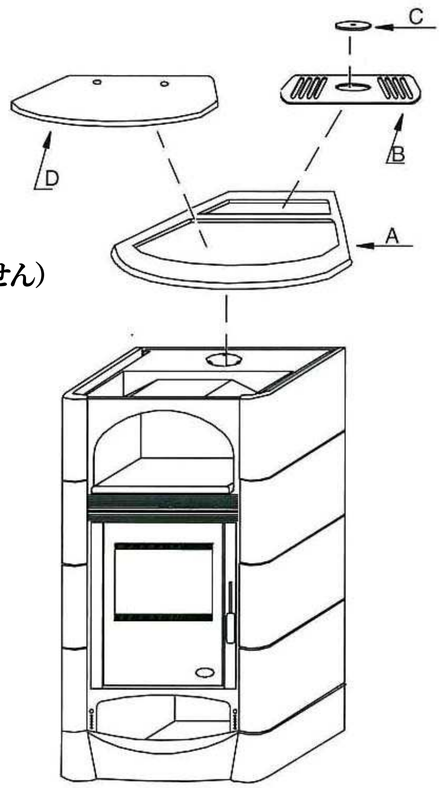
４．１．４項の図 A,B,C,D の部品を取り外します。
ステンレス板の場合は保護シールを剥がして下さい。
左右のパネルをフック部に合わせて取り付けます。
本体にしっかり取り付けられているか確認して下さい。
そして先ほど外した部品 A,B,C,D,を再び取り付けます。

４．１．４　本体上面の取り付け

・本体上面の部品を取り付けてこの製品は完成します。

上部枠組みと陶器カバーの組み立て

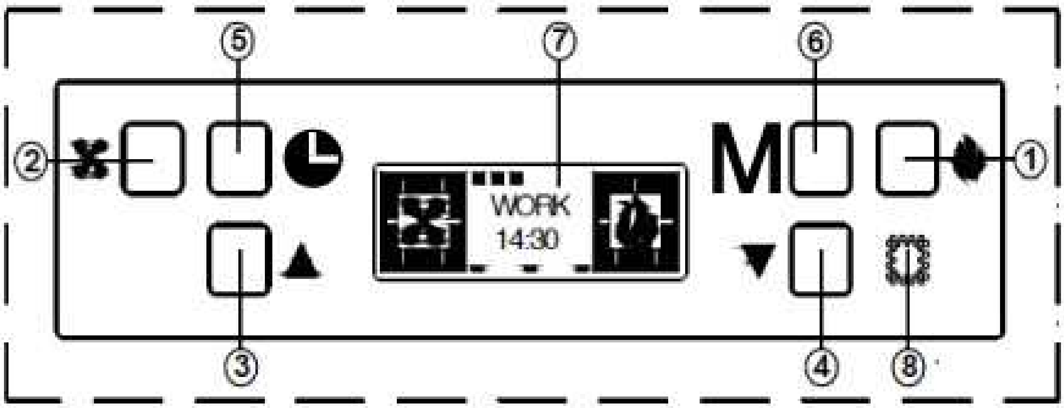
左図を参照して、以下の順序で取付けを行って下さい。
ー部品Ａを取り付けます。（この部品ははめ込み式ではなく、
本体上部に乗せるだけです。）
ー部品Ｂを取り付けます。（この部品もはめ込み部はありません）
ー部品Ｃを取り付けます。
ー上面用セラミックＤと２つの錫製ノブを取り付けます。



５　操作方法について

５．１　コントロールパネルと背面パネルについて

５．1．１　コントロールパネルの説明



① ：着火・消火および火力調整ボタン（リモコンの場合、白いボタンが同じ操作が出来ます。）
着火や消火および火力の調整が出来ます。火力は５段階に調整出来ます。またレベルは炎のマークの外周の■表示数で表示されます。

<着火の方法>

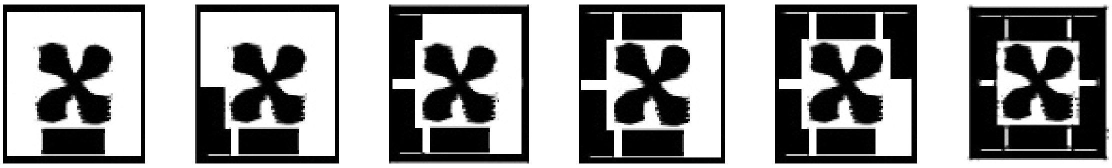
モニター⑦がＯＦＦの表示の時ボタン①を１回押すと表示が「START」、火力レベル１となり着火モードに入ります。着火モードは約２５分間続きます。この時は予め設定されたプログラムで稼働しますので火力レベルの表示が変わっても燃料の供給量は変わりません。着火モードが終わり「WORK」表示となったら表示されている火力レベルで運転します。



OFF	レベル１ 火力最小	レベル２	レベル３	レベル４	レベル５ 火力最大

注意：火力レベル５での使用はストーブの過熱防止の為１時間以内にして下さい。

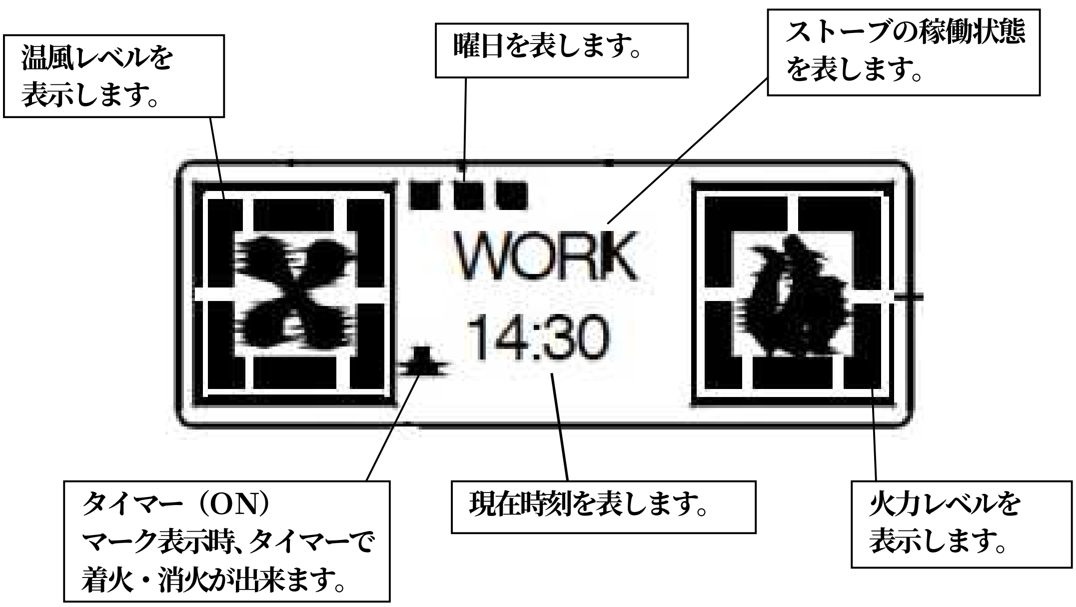
②：温風レベル調整ボタン（リモコンの場合、青いボタンが同じ操作が出来ます。）
温風の強さを 6 段階で調整出来ます。但し排気温度が 70℃以下の場合は運転しません。



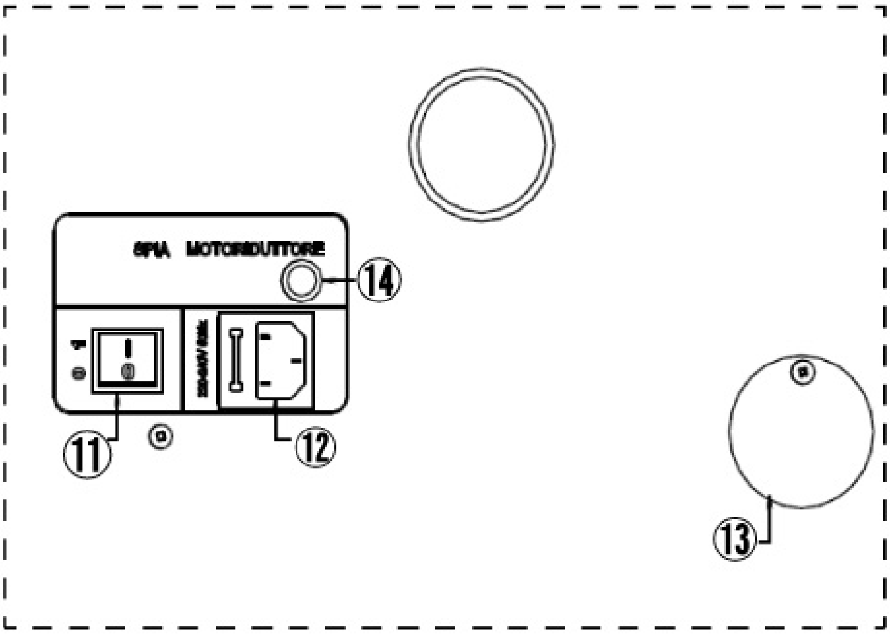
レベル 1　レベル 2　レベル 3　レベル 4　レベル 5　レベル 6

■上手なストーブの使い方（レベル調整）
温風の暖かさは温風レベルと火力レベルのバランスで決まります。お客様の体感に合わせてレベルを調整して下さい。火力レベルだけ上げても温風レベルを上げないとストーブ内部だけが熱くなり部屋は暖まりません。逆にストーブ内の電子機器へ悪い影響があります。最適な目安は以下の通りです
火力レベル 1 の時：温風レベル 2～3
火力レベル 2 の時：温風レベル 3～4
火力レベル 3 の時：温風レベル 4～6
火力レベル 4、5 の時：温風レベル 6
温風レベルはモニターが「OFF」の状態でも調整しておいてストーブが着火してセンサーが暖かい温風を送風できると感知すると自動的に調整したレベルで運転を開始します。

③④：機能調整ボタン
タイマー運転の設定や曜日・時間の設定などに使用します。
⑤：タイマーボタン
タイマーで着火・消火を行いたい時に使用します。
⑥：メニューボタン
このボタンでメニューを選択出来ます。繰り返し押すとモニター⑦へメニューが表示されストーブの設定や機能を変更出来ます。
⑦：モニター
ストーブの現在のモードやタイマーのオンオフなどを表示します。表示内容は①のオンオフ／火力調整ボタンや⑥のメニューボタンによって変化しますが、英語による表記以外にポイントマークも点灯します。
⑧：赤外線センサー
リモコンも受信部になります。
＜モニターの説明＞

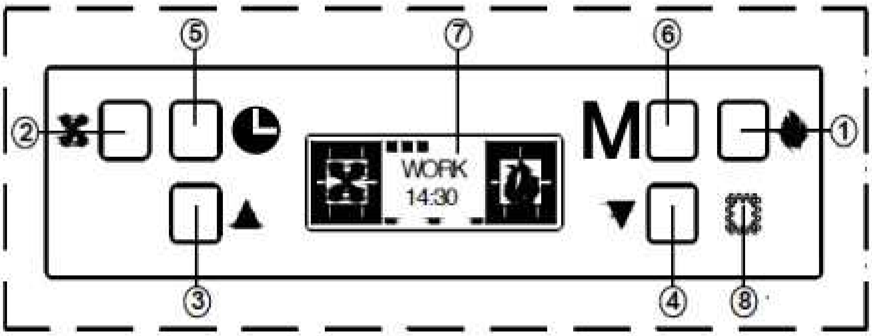


５．１．２　背面パネルについて

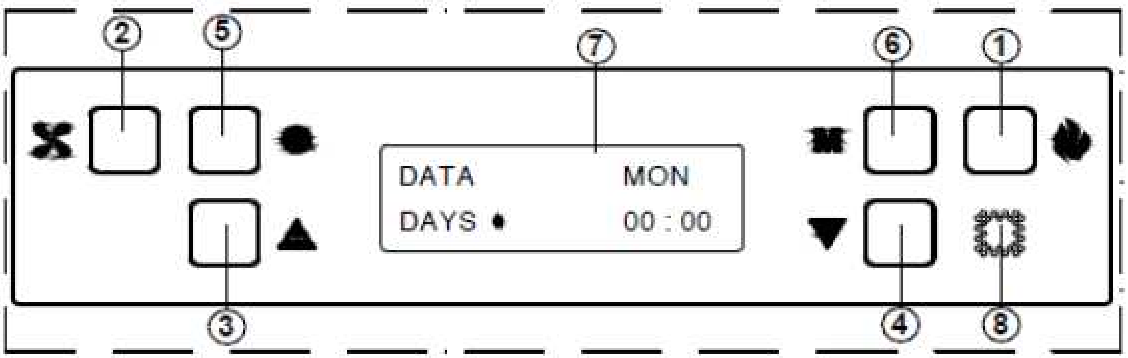


⑪：メインスイッチ
長期不在やシーズンオフはこのメインスッチをＯＦＦ（0）にして下さい。絶対にメインスイッチで消火しないで下さい。全てのモーター、ファンが止まっているのを確認してＯＦＦにして下さい。
⑫：電源コードコンセント（220－240Ｖ／50Hz）
⑬：高温サーモスタットボタンキャップ
ストーブがオーバーヒートすると燃料の供給を止めます。オーバーヒートの原因を解消してストーブが十分冷めたらこの蓋を開けてリセットボタンを押してから再スタートして下さい。
⑭：オーガモーター稼働ランプ
オーガモーターに電気が供給されて稼働する時この緑のランプが点灯します。

５．２　曜日と時間の設定について



まずストーブのメインスイッチ⑪を入れた状態で行います。(「1」でＯＮ：８ページ参照）モニター⑦に「START」「WORK」「OFF」のいずれか表示されている時に時間と曜日の設定は可能です。設定の方法は次の通りです。



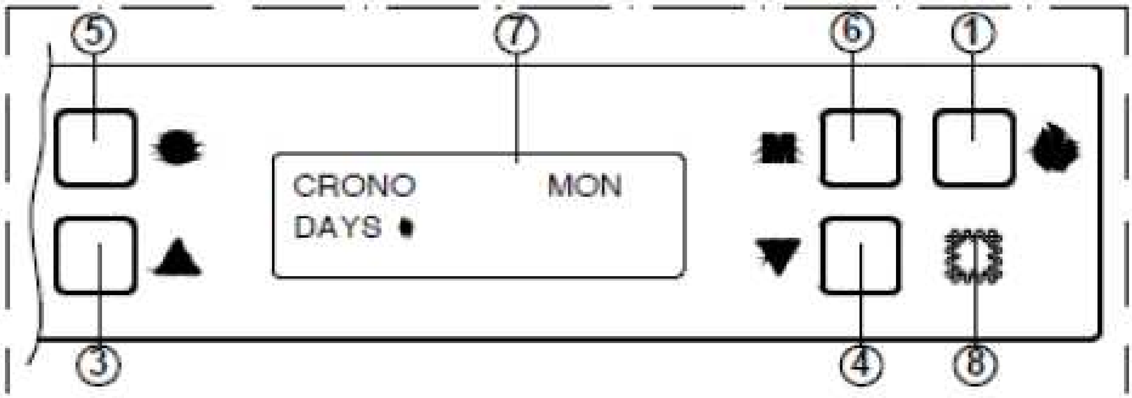
メニューボタン⑥を１回押すとモニター⑦に上記のように「DATA」と表示され「DAYS」の横に■のマークが表示されます。これは曜日を表します。またモニター右上に英語表記されます。矢印ボタン③④を押して曜日を設定して下さい。

月曜日：DAYS　■　　（MON）
火曜日：DAYS　■■　（TUE）
水曜日：DAYS　■■■（WED）
木曜日：DAYS　■■■■（THU）
金曜日：DAYS　■■■■■（FRI）
土曜日：DAYS　■■■■■■（(SAT）
日曜日：DAYS　■■■■■■■（SUN）

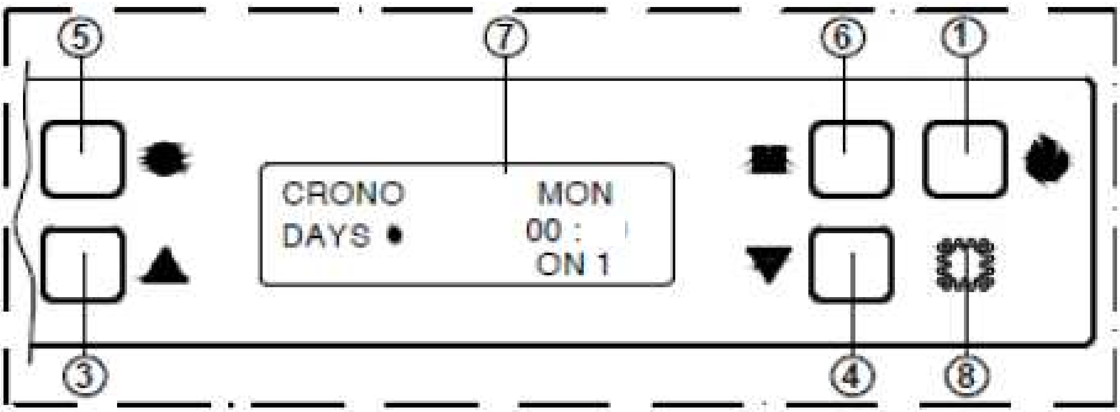
曜日が設定したらボタン①を押して決定（設定完了）します。
曜日の設定が完了するとモニター⑦に 2 ケタ数字「00」が表示されます。これは何時何分の何時かを表しています。例えは現在の時間が 14 時 45 分の場合、ボタン③④にて「14」と表示させて下さい。表示させたらボタン①を押して決定します。続いて何分かを示す 2 ケタの数字「00」が表示されます。時間と同じ要領で「45」と表示させてボタン①を押して決定して下さい。以上で曜日と現在時刻の設定は完了です。
メニューボタン⑦を繰り返し押してストーブの稼働状態を表す「START」「WORK」「OFF」のいずれかを表示させて下さい。これは着火後でも操作出来ます。

５．３　自動着火／自動消火のプログラム（タイマー運転）

タイマーにて自動着火・自動消火の時間を設定できます。これはメインスイッチを入れた状態でしたら消火時や着火時のいつでも設定できます。このプログラムは 1 日 3 プログラム設定できます。（例えば 06:30～09:00、12:00～15:00、17:00～21:00 など）また各曜日個別に 1 週間分の設定が可能です。
最初にメニューボタン⑥を 2 回押すと次のようにしてモニターに「CRONO」と表示され曜日を示す DAYS と■のマークひとつと英語表記 MON（月曜日の意味）が表示されます。



月曜日のタイマー設定をしたい場合はボタン①を押して下さい。下記のようにモニターに表示されます。その他の曜日のタイマー設定をしたい場合はボタン③④を押してご希望の曜日へ移動して（表示させて）ボタン①を押して下さい。



曜日の移動が終わると⑦のモニターに「On1」と表示され、続けて時間を表す 2 桁の数字に変わり点滅します。これは、その曜日の「オン１」であり、1 つめのタイマーの着火時間を示しています。
設定の順番は下記のように設定します。

曜日→On1→OFF1→On2→OFF2→On3→OFF3→次の曜日→On1→OFF2→・・・・・

時間の入力方法は時計の設定と同様です。まず、③④の機能調整ボタンを押して着火させたい時間に合わせた上で①の着火・消火／火力調整ボタンを押して「何時」を確定させてください。次に分単位の 2 桁の数字が点滅するので、同じく③④の機能調整ボタンを押して現在の「何分」に合わせた上で①の着火・消火／火力調整ボタンを押して確定させてください。これで何曜日の何時何分にストーブを運転させるかが設定されました。

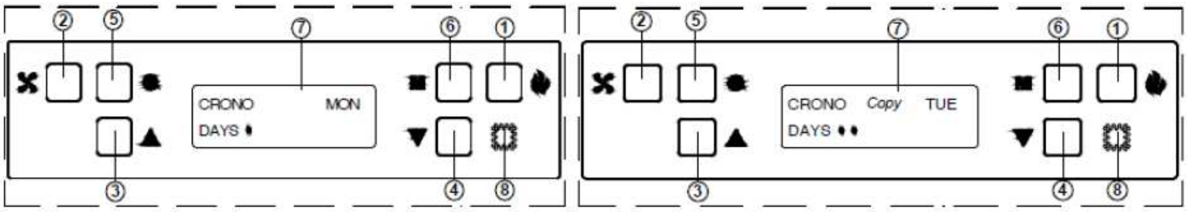
次は何時何分に消火させるかを入力します。⑦のモニターは「OFF 1」と一瞬表示され、その後「何時」を表す 2 桁の数字に変わります。この際、時間はその前（「On1」の時）に入力した数字が保存されています。③④の機能調整ボタンを押して現在の時間に合わせた上で①の着火・消火／火力調整ボタンを押して「何時」を確定させてください。「何分」も同じ作業を繰り返してください。これで消火する時間が設定されました。

1 番目のタイマー設定後、⑦のモニターには「On2」と表示され、続けて時間を表す 2 桁の数字に変わり点滅します。これは、その曜日の「オン 2」であり、2 つめのタイマーの着火時間を示しています。2 つめを設定する場合は、1 つめと同様の作業を繰り返してください。「On2」の後は「OFF2」、「On3」、「OFF3」となり、次の曜日へと移行します。

2 番目タイマーを設定しない場合は、⑦のモニターに「On2」と表示され、続けて表示される 2 桁の「時間」を表す数字に「00」と入力して下さい。①の着火・消火／火力調整ボタンを押して「00 時」を確定させたうえで、次の分単位の 2 桁の数字も「00」と入力し、①の着火・消火／火力調整ボタンを押して「00 分」も確定させてください。

注意：1 番目のタイマー設定だけで入力を終了したい場合でも 2 番目のタイマー設定をすべて「00」を入力して下さい。

月曜日を設定した後、他の曜日でも同じプログラムにしたい場合はプログラムをコピーする事ができます。

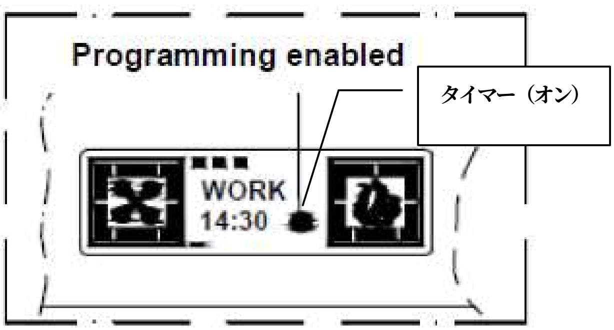


月曜日の設定が終わると上図の左の画面になります。この時温風レベルボタン②を押すとモニターに「COPY」と表示され（右の図）火曜日に同じプログラムがコピーされます。更にもう一度ボタン②を押すと水曜日に同じプログラムがコピーされます。この様にボタン②を繰り返し押すと各曜日に順番にコピーされます。

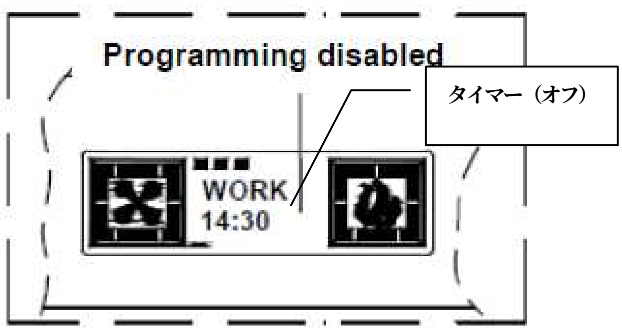
コピーが必要なければメニューボタン⑥を押してプログラム設定を終わらせて下さい。

訂正したい場合は各曜日のタイマー設定にて訂正して下さい。

タイマーによる自動運転を行いたい場合は、⑥のメニューボタンを押して、モニター表示が必ず「OFF」「START」「WORK」になっている状態で⑤のタイマーボタンを押してください。モニターに「CRRONO ON」」と表示された後、モニターの時計表示横に時計マークが表示されます。



タイマー運転待機中です



タイマー運転しません。

タイマー運転を解除したい場合は、⑤のタイマーボタンを押してください。モニターに「CRNO OFF」と表示された後、モニターの右下のポイントマークが消えます。

タイマーで運転が始まった後、予めプログラムされた終了時間よりも早く消化したい場合は、タイマー運転中に①の着火・消火／火力調整ボタンを押して火力レベル LED を全て消灯して約 10 秒後ストーブは消火モードに入り、消火します。この場合でもモニター右下のポイントマークが点灯したままであれば、次のタイマー運転は有効（つまりタイマー自体は解除されていない）です。

タイマーで運転が始まった後、予めプログラムされた終了時間を超えて運転を延長したい場合は、タイマー運転中にタイマーを解除（⑤のタイマーボタンを押す）していただければそのまま運転が継続されます。

なお、タイマー運転時の火力レベルは、前回の消火操作によって違います。タイマーによる消火の場合は消火前の火力レベルでスタートします。タイマーによらない手動消火の場合はレベル１でスターとします。

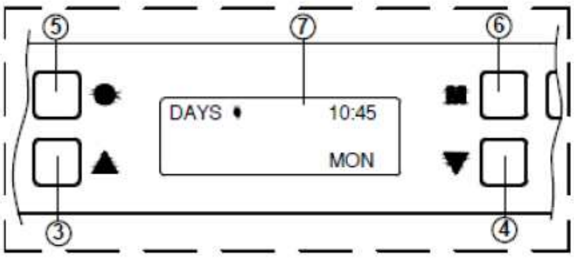
タイマー運転は便利な機能ですが、使用前（運転していない時）に燃焼ポットの中の灰を必ず掃除するようにしてください。燃焼ポットの中に灰が溜まるとペレットの着火不良を起こすため自動運転ができなくなるばかりか異常燃焼につながり危険です。また、灰の溜まるスピードはご使用になるペレットの品質や燃焼時間に関係します。なるべく灰の少ないホワイトペレット（品質表示の A1 クラス）のご使用をお薦めします。

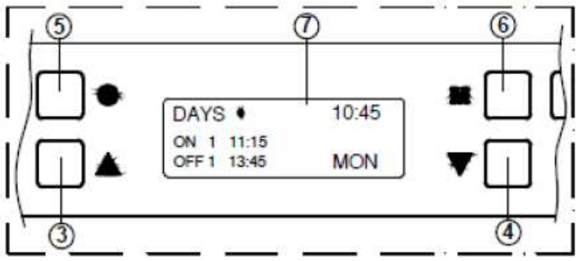
プログラム運転待機中（ディスプレイ右下にポイントマーク表示中）の時はオプションのクロノサーモスタットを装着しても機能しません。（7.2 項参照）

登録したプログラムを全てリセットする場合は「RESET CRONO」と表示されるまで約 8 秒間ボタン⑤を押し続けて下さい。**この操作はディスレイ表示が「WORK」「OFF」「START」の時に出来ます。**

５．３．１　タイマー設定の確認

プログラムしたタイマー設定を確認したい場合はメニューボタン⑥を５回押して下さい。モニター⑦に「SHOW CRONO」の表示された後、下左図の様に表示されます。表示されたらボタン③を押すと下右図のように月曜日の１番目のプログラムが表示されます。繰り返しボタン③を押すと２番目３番目、火曜日１番目・・・の様に次々に表示されます。確認が終わったらメニュウボタン⑥を押して通常表示へ戻って下さい。





これは表示されるだけでプログラムの設定変更は出来ません。

５．４　排気ファンレベル設定

メインスイッチを入れて下さい。本機は効率の良い燃焼状態をプログラミングされております。標準の排気ファンのレベル（燃焼空気供給量）は「Level 1」です。もし燃焼後の残留物が多いペレットを使う場合など他のレベルを選択できます。

Level 2：このプログラムは排気能力をアップさせます。

Level 0：低圧縮のペレットを使う場合またはドラフト圧が 0.2h P以上の時（炎が立ち消えする時）

ペレットの消費量はこのレベル設定には影響されません。下記に従って設定して下さい。

メニューボタン⑥を 3 回押すとモニターへ「LEVEL」と表示された後、現在の排気ファンレベルが表示されます。設定を変更する場合ボタン③を押したままボタン④を押します。そのまま繰り返しボタン④を押すと連続してレベル表示が変わります。設定したいレベルが表示されたらメニューボタン⑥を押して標準画面へ戻って下さい。

⚠ ▽ このレベル設定はストーブが燃焼中でも可能です。稼動中に変更した場合、燃焼状態が変わるでしょう。最適な燃焼状態を設定するために、独自の設定条件を管理することはストーブにとって必要です。設定する前に必ず燃焼皿はメンテナンス（クリーニング）して下さい。

６．　ストーブの使用方法

６．１　ストーブの着火（５項参照下さい。）

ストーブを使用する前にすべての取り付け部品が正しく取り付けられているか確認して下さい。またラベルやステッカーなどは跡が残りますので全て剥がして下さい。
ストーブのメインスイッチを入れて下さい。ボタン①を押すと着火モードとなります。着火モードが終わると希望のモードで運転されます。火は数分で着くはずです。スタート時は多くのペレットが供給されます。ペレット供給オーガにペレットが充填されていない場合（最初の稼動時またはペレットタンク清掃後など）、ペレットが出てくるまで時間が掛かり着火できない場合があります。この場合はもう一度着火モードにして下さい。

▽ 注意：着火モード「START」の 20 分間は他の設定には対応しません。運転モード「WORK」が表示されると希望設定で運転します。ただし排気温度が 70°Cになると自動的に温風ファンは送風を開始します。

６．２　燃焼状態の設定
（５項参照下さい）

６．３　リモコン

このストーブは付属の赤外線リモコンでも操作出来ます。白いボタンは操作パネルのボタン①、青いボタンはボタン②と同じ操作ができます。但しプログラムなどの設定には使用できません。着火・消火および火力・温風の調整のみ可能です。ボタンを押すと緑の LED が点灯します。点灯しない場合が電池切れですので電池を交換して下さい。（電池はパナソニック LRV08：12V 相当）



６．４　サーモコンフォートリモコン（オプション）

このストーブはサーモコンフォートリモコン（室温設定自動運転）の受信装置が内蔵されています。オプションのサーモコンフォートリモコンを購入すると室温を設定温度になるよう自動運転出来ます。但し電波の届く範囲は設置環境、壁の厚さなどにより 6~7mの範囲になる場合がございますので予めご了解の上ご購入下さい。**注意：サーモコンフォートリモコンでは着火・消火の操作は出来ません。**

ℹ 注意:最適な電波の送信のためにサーモコンフォートリモコンは壁などに掛けてご使用下さい。
サーモコンフォートリモコンを操作するにあたり下記準備下さい。

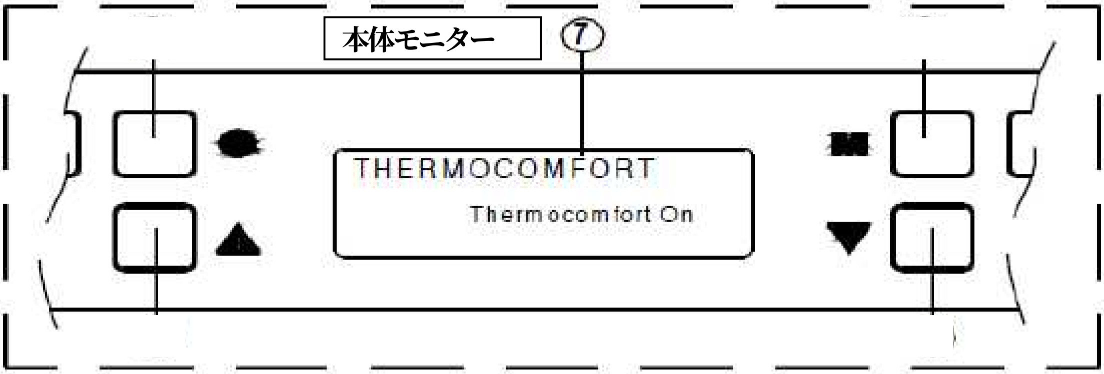
■リモコンのバッテリー蓋を開いてバッテリーのスイッチを ON にしたあとリモコン背面のサーモコンフォートリモコンのメインスイッチ⑪を ON にして下さい。（次のページ参照）

■付属の充電器で充電して下さい。充電池容量が全くない場合は最初の 5 日間は充電器に接続したままにしておいて下さい。十分充電されたら充電をやめて下さい。わずかな継ぎ足し充電や常時充電はバッテリーの寿命を短くしますのである程度充電容量が少なくなったら充電して下さい。またバッテリーのスイッチを ON にしないと充電されません。

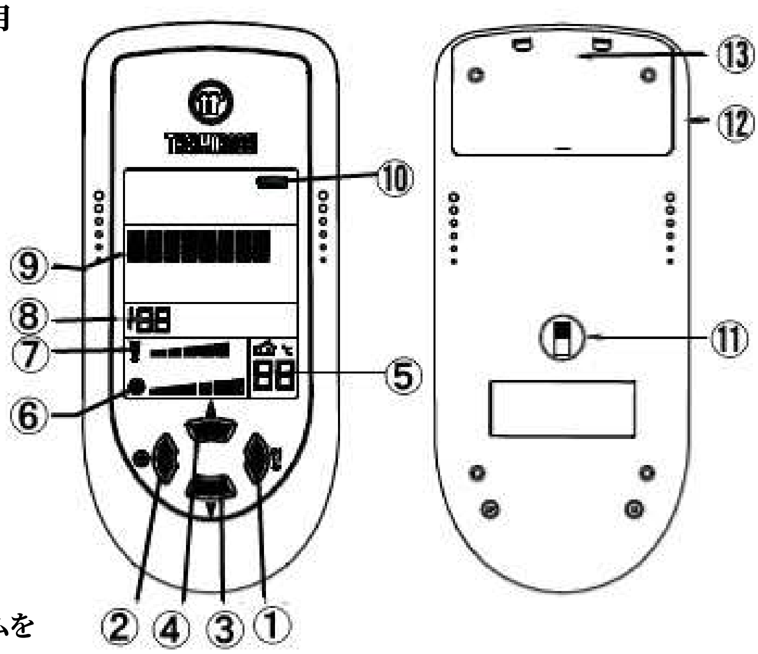
■ストーブ背面のメインスイッチを ON「1」にして下さい。

＜注意＞
サーモコンフォートリモコンは通常の状態では「OFF」の状態で機能しません。機能させるためにはモニターに「WORK」または「START」または「OFF」が表示された状態で本体操作パネルのメニューボタン⑥を「THERMOCOMFORT」と表示されるまで繰り返し押して下さい。表示されるとすぐに「Thermocomfort Off」と表示されます。この時本体操作パネルのボタン③を押すと「Thermocomfort On」

と表示されます。表示されたらメニューボタン⑥を押して通常画面「OFF」「START」「WORK」いずれかの表示へ戻って下さい。これでサーモコンフォートリモコンが機能するように設定変更されます。
シーズン終了後はバッテリー保護のためバッテリースイッチをOFF（1）にして保管して下さい。
付属のバッテリーの保証期間は6カ月です。充電が十分に出来なくなったら充電池を交換して下さい。
サーモコンフォートリモコンが感知する温度はリモコンが置かれた場所の温度ですのでご考慮下さい。



6．4．1　サーモコンフォートリモコンの説明



①　火力レベル調整ボタン
②温風レベル調整ボタン
③④機能調整ボタン
⑤リモコンが感知している室温
⑥温風ファンレベル表示
⑦火力レベル表示
⑧設定温度（希望される室温）
　ボタン③または④を押してご希望の
　室温を選択出来ます。
⑨運転プログラムを表示しています。
⑩バッテリーの容量（残量）の表示
⑪リモコンのメインスイッチ
⑫充電器差し込み口
⑬バッテリー蓋

サーもコンフォートリモコンは4つのプログラムを選択出来ます。モニターの⑨へ表示は「MANUAL」「AUTO5」「AUTO3」「ECONOMY」のいずれかが表示されます。

＜プログラムを選択または変更する場合＞

リモコンのメインスイッチ⑪をONにして下さい。
プログラム表示⑨の表示が点滅するまでボタン③を長押しして下さい。
プログラムが点滅したらボタン③を一旦離して下さい。点滅している間にボタン③または④を押してご希望の運転プログ表示にして下さい。これで選択、変更が完了です。

「MAMUAL」のプログラムについて（本体の操作パネルにてThermoomfort Onにして下さい。）
このプログラムの場合はリモコンでの室温調整はできません。（設定温度は無視されます。）火力レベル、温風レベルをリモコンで操作出来るだけのプログラムです。（注意：着火・消火はできません。）
ボタン①を押すとモニター⑦の火力マークが点滅します。ボタン③を押すと火力レベルは小さくなり火力レベルを示す■■も消えていきます。逆にボタン④を押すと火力レベルは大きくなりレベル表示の■■も増えて行きます。火力レベルを変えたい場合はボタン③④で調整して下さい。
同様に温風レベルを調整したい場合まずボタン②を押して下さい。ファンのマーク⑥が点滅します。ボタン③を押すと温風は弱まりレベル表示の■■も消えていきます。逆にボタン④を押すと温風は強まりレベル表示■■も増えて行きます。
注意：電波障害により操作が出来ない場合は標準の赤外線リモコンをお使い下さい。

上手なストーブの使い方（レベル調整）

サーモコンフォートリモコンの場合も同じですが火力レベルだけ上げても温風レベルを上げないとストーブ内部だけが熱くなり部屋は暖まりません。逆にストーブ内の電子機器へ悪い影響があります。最適な目安は以下の通りです

火力レベル１の時：温風レベル 2〜3

火力レベル 2 の時：温風レベル 3〜4

火力レベル 3 の時：温風レベル 4〜6

火力レベル 4、5 の時：温風レベル 6

「AUTO5」**プログラム**（本体の操作パネルにて Thermoomfort On にして下さい。）

このプログラムはご希望の室温になるよう自動で火力・温風を調整します。ご希望の温度はモニター⑧へ表示されます。ボタン③④でいつでも温度変更できます。「AUTO5」のプログラムは設定温度になるよう火力および温風を最大レベルで運転させます。その為、短時間で設定温度へ近づける事ができますがペレットの消費も多く、送風音も大きくなります。設定温度に達すると燃焼レベルは安定します。

注意：電波障害により操作がうまくいかない場合もございます。このプログラムの場合赤外線リモコンは使用できません。また設定温度が高すぎるとストーブはいつまでも最大火力レベルで燃焼を続けますのでオーバーヒートや電子機器の損傷につながり寿命の低下を招きます。適切な設定温度を設定して下さい。

「AUTO3」**プログラム**（本体の操作パネルにて Thermoomfort On にして下さい。）

このプログラムもご希望の室温になるよう自動で火力・温風を調整します。ご希望の温度はモニター⑧へ表示されます。ボタン③④でいつでも温度変更できます。「AUTO3」のプログラムは設定温度になるよう火力レベル 3 および温風レベル 4 で運転します。設定温度なるまで「AUTO5」より時間は掛りますがペレットの消費量は少なくストーブへの負担も軽減されます。。設定温度に達すると燃焼レベルは安定します。

注意：電波障害により操作がうまくいかない場合もございます。このプログラムの場合赤外線リモコンは使用できません。また設定温度が高すぎるとストーブはいつまでも最大火力レベルで燃焼を続けますのでオーバーヒートや電子機器の損傷につながり寿命の低下を招きます。適切な設定温度を設定して下さい。

「ECOMOMY」**プログラム**（本体の操作パネルにて Thermoomfort On にして下さい。）

このプログラムもご希望の室温になるよう自動で火力・温風を調整します。ご希望の温度はモニター⑧へ表示されます。ボタン③④でいつでも温度変更できます。「AUTO3」のプログラムは設定温度になるよう火力レベルおよび温風レベルは最小レベルで運転します。もっともペレットの消費が少なくストーブへの負荷も軽いので長時間ご使用される場合はお勧めのプログラムです。**このプログラムの場合赤外線リモコンは使用できません。**

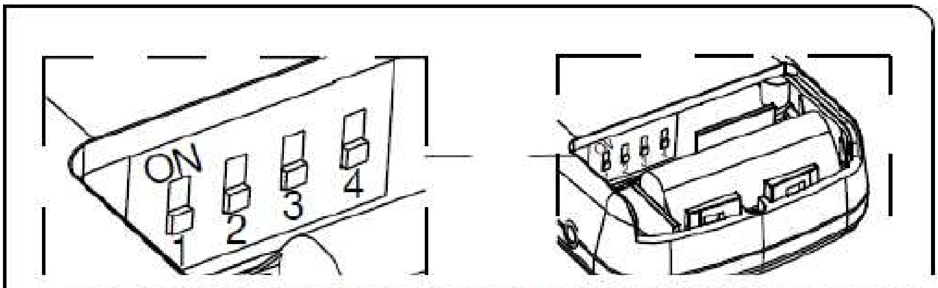
サーモコンフォートリモコンでの着火・消火はできません。本体の操作パネルで行って下さい。

６．４．２　送信コードについて

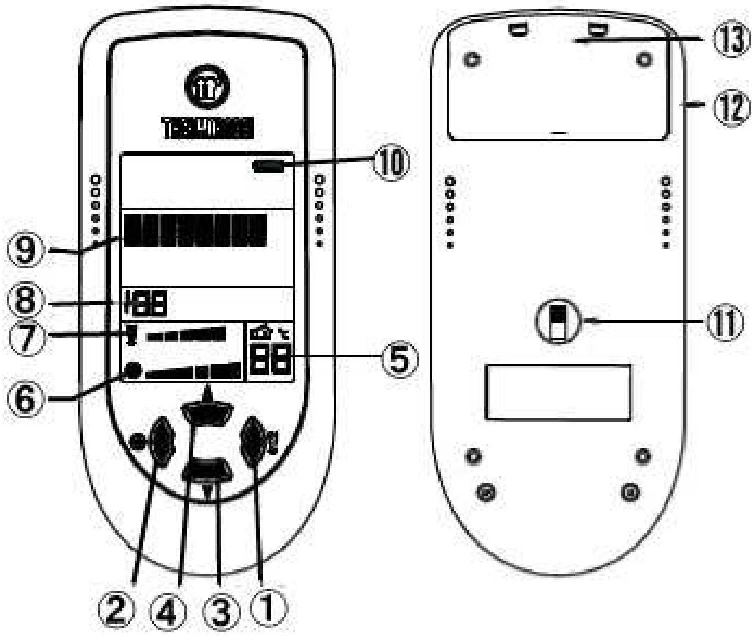
2 台以上のストーブを隣接して設置しサーモコンフォートリモコンを使用する場合、混信しないように周波数をそれぞれ別にする必要があります。これはストーブのメインスイッチを入れた状態で行って下さい。これは 2 つのストーブの誤作動を防止する為に必要です。使用周波数を変更する場合、それぞれのコードを確認した上で同じコードにして下さい。工場出荷時は全て標準設定されています。

まずサーモコンフォートリモコンの機能をＯＦＦにします。本体の操作パネルでメニューボタン⑥を繰り返し押してモニター⑦へ「THERMOCOMFORT」と表示させて下さい。表示後すぐに「Thermocomfort On」または「Thermocomforot Off」と表示されます。ON の場合はボタン③を押して「Thermocomfort Off」にして下さい。Off にしたらメニューボタン⑥を押すと標準画面に戻ります。

次にサーモコンフォートリモコンのメインスイッチ⑪を切りバッテリー蓋⑬を開けて下さい。（下図参照）バッテリの横に 4 つのチャンネルボタンがあります。このチャンネルボタンを他のリモコンと同じチャンネルにならないように設定して下さい。（例えば 1 を ON、もう一台は 2 を ON、もう一台は 4 を ON）



CODE SELECTOR FOR HANDHELD RADIO CONTROL CONTROLLED BY RADIO WAVES



チャンネルの設定が終わったらサーモコンフォートリモコンのバッテリースイッチ、メインスイッチ⑪を入れて下さい。
今度は先ほどとは逆に本体の操作パネルにてストーブ本体を「Thermocomfort On」の状態にして下さい。
サーモコンフォートリモコンが操作できれば周波数は変わっているはずです。もし誤作動するようでしたらもう一度上記手順でチャンネルを変更して下さい。
ストーブ本体側は変更の必要はありません。但し 1 台づつ変更を実施して下さい。他のストーブの設定中はストーブ本体およびサーモコンフォートリモコンのメインスイッチは OFF にして下さい。

６．４．３　サーモコンフォートリモコンのメンテナンス

このリモコンは厳しい規格に基づき設計、製造されておりますので取り扱いには十分注意を払って下さい。下記の注意事項に従って取扱い頂けると長期間不具合なくお使い頂けます。

1. 常に湿気のない所に保管して下さい。雨水、湿気、水気は電子回路を腐食させます。万が一水で濡れた場合、直ぐにバッテリーを外し、外装カバーを開き水気を拭き取り室温にて十分乾燥させて下さい。
2. 埃っぽい場所や、汚れた環境で使用したり、保管しないで下さい。埃や汚れはリモコンの不具合の原因となります。
3. 高温の環境下へ置かないで下さい。熱による電子機器およびバッテリーの寿命低下につながります。温度によっては樹脂（ケースなど）の変形、溶解が発生します。
4. 冷たい環境下へ置かないで下さい。温められると結露などにより電子機器に不具合が発生します。
5. 落としたり、叩いたり衝撃を与えないで下さい。内部回路が損傷します。
6. リモコンを腐食性の化学物質や液体、洗剤等でクリーニングしないで下さい。（乾いた布で拭く）

以上の注意はバッテリー、充電器などの全ての付属品に共通です。必要な部品（バッテリー、キーパッド、ケース、ケース内部品）は購入日より６ヶ月間保証します。上記要因が認められる場合は保証できません。
これらに適合しない場合は部品および装置を 2 ヶ月以内にテルモロッシへ報告、返品して下さい。この情報は技術情報としてテルモロッシが管理いたします。

7.　自動室温サーモスタットと時間別自動室温サーモスタット（オプション）

このサーモスッタトは別売品です。サーモコンフォートリモコンの機能を使えばこのオプションは必要ありません。　ここでの説明は省略させていただきます。詳しくは販売店、輸入元へお問い合わせ下さい。

8.　クリーニングとメンテナンス

8．1　　はじめに

警告：いかなる作業でも始める前に、必ず電源プラグを抜いてください。

エコサーモは特殊なメンテナンスが必要な製品ではありません。いつでも適正な動作、運転を行えることを保証するための、簡単なチェックと基本的なクリーニングをこまめに行うだけで充分です。**ただしクリーニングを怠ると重大事故につながる可能性がありますのでご注意下さい。**

8．2　　ストーブのクリーニング ▽

・　**毎日燃焼皿に付着した灰を除去して燃焼皿の空気穴が確保して下さい。A　（燃料によってはクリンカーが堆積し、空気穴を塞ぎ、不完全燃焼のペレットが山盛りになり事故につながる場合もあります。）**

・　３日おき、またはペレットを補充するときに、暖炉の下部にある集灰用引き出しＢ（大）、燃焼皿A下部のボックスの中の灰を以下のやり方で取り出して捨てて下さい。暖炉のドアを開けて、鋳物製燃焼皿Aを取り出し下部ボックスの中の灰を掃除機で吸い出します。Bの引き出しを取り出し、良く清掃します。清掃後、すべての部品を元の位置に正しく組み込みます。更に、右図のように燃焼皿に炎制御板をセットして下さい。

事故防止のため着火前には必ず燃焼皿は確認して下さい。（毎日）

１週間に１度下図Ｇ部の温風吸い込み口について埃を取り除いて下さい。

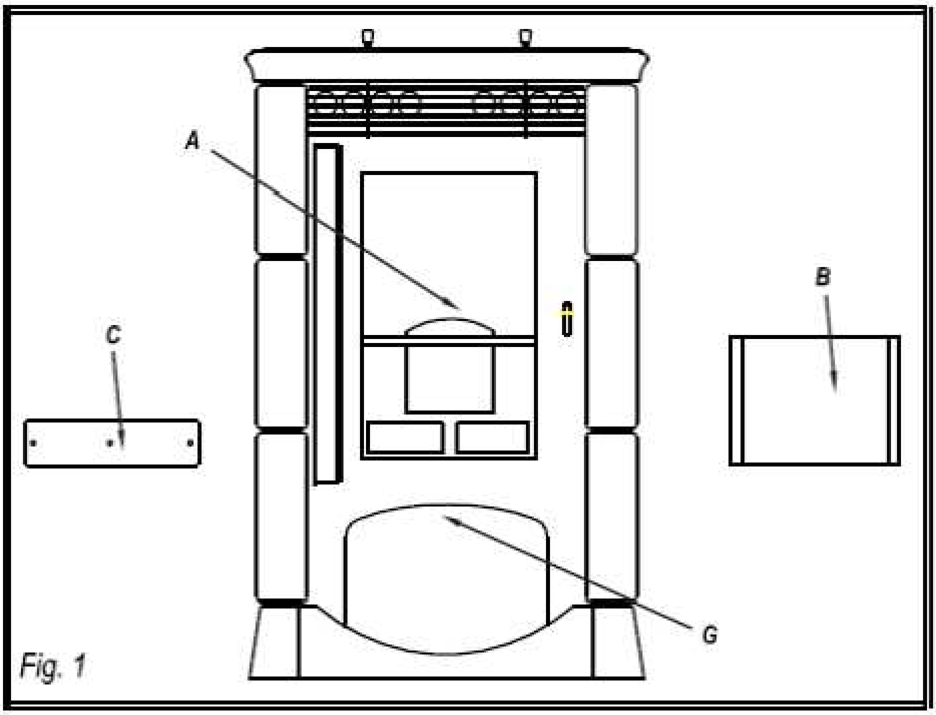
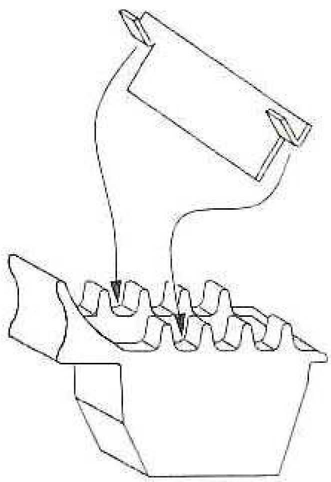
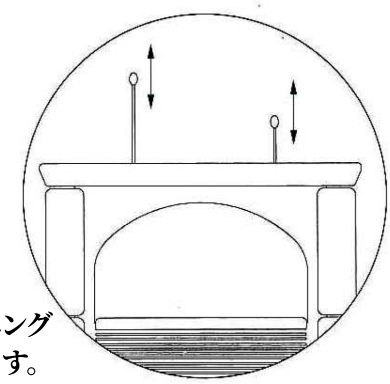


Fig. 1



注意：このクリーニングによって、吸排気の流れを確実にします。掃除機を使用すると、灰のクリーニングを簡単に行えます。

・　ガラス部のクリーニングは、濡らした布または丸めた新聞紙を使って、灰が落ちてきれいになるまで磨いてください。サーモロッシ洗剤のご使用をおすすめします。ストーブのスイッチが入っているときは、ガラスの掃除をしないでください。上記のように燃焼皿の炎制御板が正しく置かれていれば、ガラスは汚れにくいです。



3,4日に一度、ストーブを運転していない時に
チューブブラシを1、2回上下させて（右図参照）
クリーニングを行って下さい。

▽ １ヶ月に一度、あるいは必要に応じてチューブブラシで
集めた灰を除去するため掃除口Cを開けて内部をクリーニング
して下さい。掃除口Cは3つのネジをはずすと取り外せます。

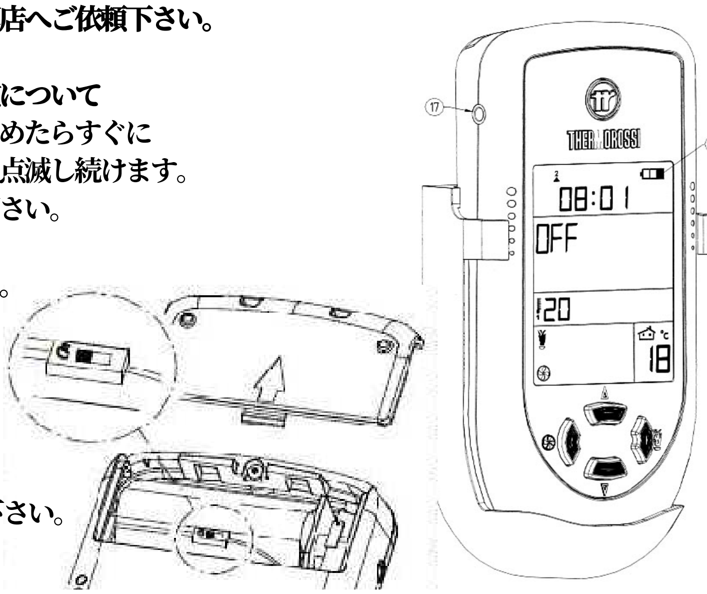
- １ヶ月に一度、ドアがきちんと閉まり、空気漏れがないことを確認して下さい。
- シーズンが終わったとき、あるいは必要なときはいつでも、
  ブラシと掃除機を使って燃焼室をクリーニングして下さい。
- 少なくても１ヶ月に一度は排煙パイプが灰で詰まってないかを
  確認して下さい。
- 煙突は最低年二回清掃してください。煙突配管に
  水平部分がある場合は、灰の堆積物や煤を除去してから
  他の部分を清掃してください。電気掃除機を使うと
  灰の掃除は簡単です。

警告：このメンテナンスを怠った場合はいかなる不具合も保証出来ません。それほど重要な事項です。
ご自分で出来ない場合は設置された代理店へご依頼下さい。

８．３　サーモコンフォートリモコンの充電について

バッテリーのシンボルマーク⑬が点滅しはじめたらすぐに
充電して下さい。充電中もシンボルマークは点滅し続けます。
充電はリモコン機能を使わない時に行って下さい。
リモコンは定期的に充電して下さい。
必要な充電時間は使用頻度により異なります。
充電は付属の専用充電器を使って下さい。
・入力：100V～240V、50／60Hz、0.3A
・出力：5.5V、750mA

バッテリーにはNO／OFFスイッチがついて
います。充電やご使用の際は必ずONにして下さい。



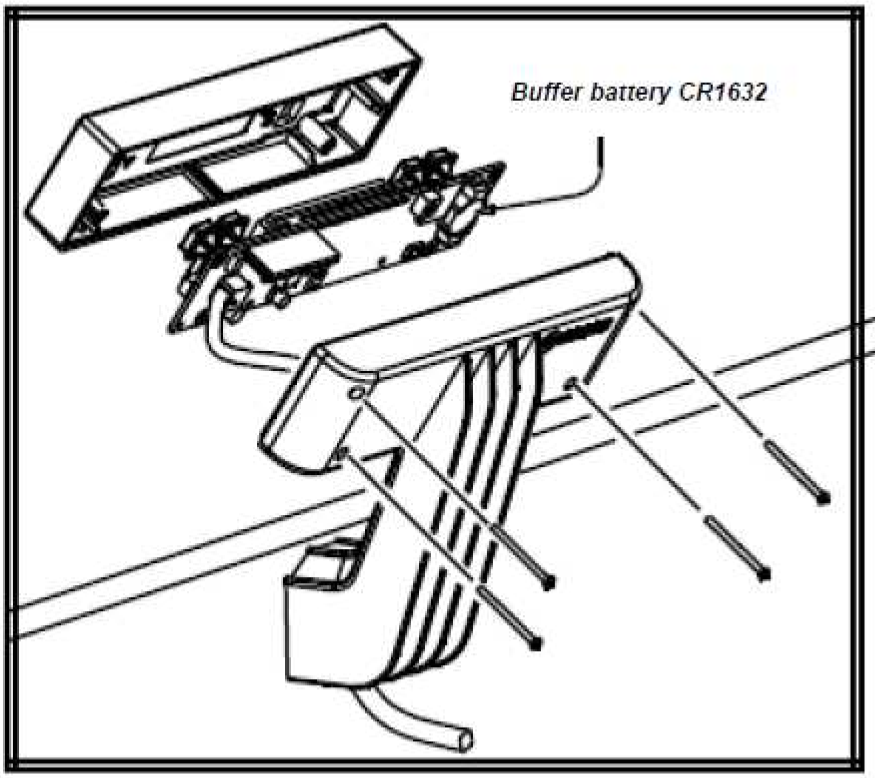
充電器はストーブで使用するトランスへ接続できますがプラグ変換器
（CプラグからAプラグ）を使用すれば国内の100Vコンセントにて
充電できます。充電は5日以上して下さい。充電時間が少ないと使用
可能時間が少ない上にバッテリーの寿命を縮めます。
常に充電しながらでも要充電のサインがでることがありますが正常です。充電後充電器から切り離すことにより通常表示に戻ります。1週間以上リモコンを使用しない時はバッテリーの放電防止のため必ずリモコンのスイッチを切って下さい。尚、バッテリーの保証期間は6ヶ月間です。

▽ テルモロッシから提供された充電器以外を使用した場合、保証できません。

８．４　赤外線リモコンの電池

6.3項参照下さい。

８．５　本体操作パネルの電池交換



本体操作パネルにはボタン電池 CR1632 が内蔵されています。時間やプログラムの記録が残らない様になったら電池を交換して下さい。パネル背面のネジを外すと交換できます。（上図参照）使い終わった電池は適切に処理して下さい。

９．排気管について

排気管は設置方法の不備により頻繁に問題が発生します。排気における全ての部品を簡単に設置できるよう下記に示します。尚、これは「UNI7129／92」「UNI10683」「EN14785」の基準を基に示すもので、実際の設置については設置場所の法令に基づいて行って下さい。誤った設置は物損及び人的被害をもたらします。

- ガス送管温度　　220℃
- ガス送管の送量　　13.2g/ｓ
- ガス送管の通風量　　0.10mbar

９．１　室内の換気について

ストーブを設置する部屋は燃焼用空気（一次空気）の取り入れ、換気、二次空気の取り入れのため新鮮な空気が必要です。従って 1 つまたは複数の外気取り入れ口（通風口）を必ず設けて下さい。
外気は綺麗な空気が入る様に考慮して下さい。（ストーブの排気等を入れない）外気との通風が直接出来ない場合、また隣接する部屋から換気する場合などは下記の注意ならびに制限を考慮して設置して下さい。

外気を取り入れる壁の通風口は下記の条件を満たすこと
・100 平方センチの開口面積を持ち格子状に区切られている場合 1 つの開口部は 6 平方センチ以上のこと
・遮断蓋などがなく常に通風状態を保つ構造であること（開閉可能にしないこと）
・上記開口面積を確保して金網または類似品で保護すること。
・フロアーレベル（高さ）に設置すること。
離れた場所（部屋）から取り入れる場合
・取り入れる部屋は上記の基準の通風口を設置して下さい。

・通風口を設置した部屋とストーブを設置した部屋をパイプなどで通風して下さい。
・取り入れる部屋は寝室や共有スペースなどは避けて下さい。（空き部屋を使用して下さい。）
・火災の恐れ、貯蔵庫、ガレージ、可燃物が蓄えられた部屋等から取り入れないで下さい。
・負圧になる可能性がある部屋からは取り入れないで下さい。
・二部屋をつなぐ通風口も上記基準で設けてネットカバーをつけて下さい。隣接する部屋とドアで繋がっていてドアとドア枠との隙間が上記開口面積を満たせば通風口代わりになります。

以上の設置基準は「UNI7129／92」「UNI10683」「EN14785」を示すものではありません。設置する有資格者は正規の規格を理解した上で設置して下さい。

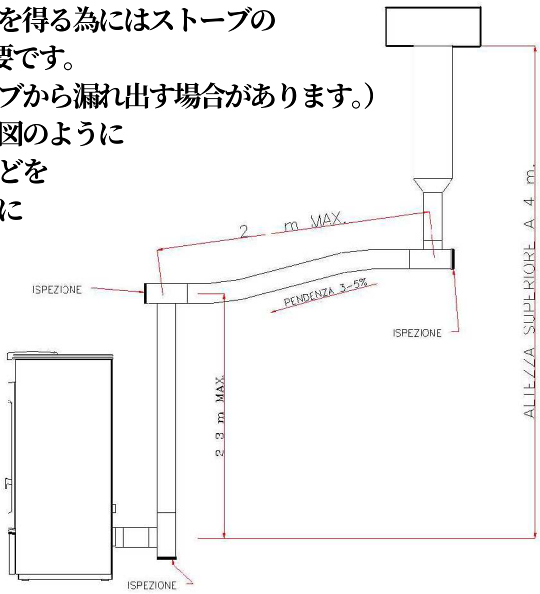
９．１．１　燃焼空気の取り入れについて

エコサーモは FE 式ですので燃焼空気は室内の空気を取り入れます。設置される場所は十分な換気が出来る部屋に設置されなければなりません。

注意：ストーブの同じ部屋に排気の換気扇がある場合空気不足になる場合があります。
注意：ストーブの吸気口は絶対に塞がないで下さい。

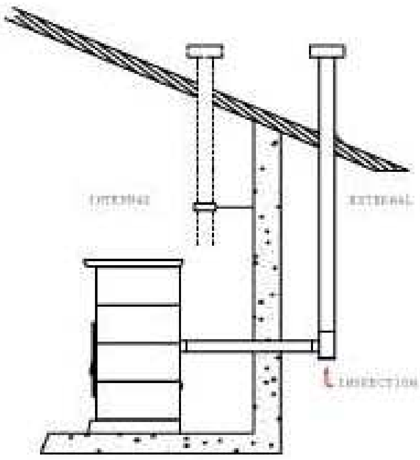
９．２　排気管について

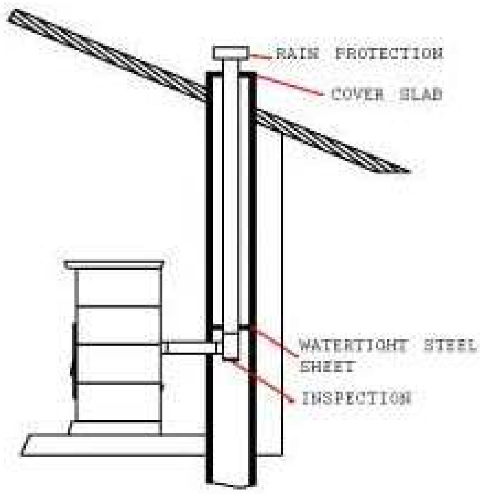
排気管について右図数値を推奨します。これは排気ファンの故障や停電時などでもドラフト効果で排気する為に推奨するものです。この効果を得る為にはストーブの排気口ならびに直後のＴ管位置より 1.5m以上の高さが必要です。
（この高さがないと排気ファンが動かない時、煙がストーブから漏れ出す場合があります。）
下の図は屋根を貫通される場合の事例です。この場合下左図のように排気管を適切な高さで壁に固定し、点検口の付いたＴ管などを必ず付けて下さい。またトップ部は風の影響を受けない様に風除けキャップを装着して下さい。
レンガ造りの煙突を流量する場合下右図のように内径 150 ㎜以下のステンレスパイプまたはホーロー処理されたスチールパイプを通すことをお勧めします。
壁への固定、点検口、風除けキャップの設置は同様に必要です。既存の煙突にパイプを通したら貫通部は必ずシールして下さい。**<u>煙突トップに網を掛けることはストーブの誤作動の原因になります。</u>**



水平部を持つ排気管を設置する場合、掃除のために点検口を設けて下さい。（右図参照）灰の除去や、軌道を妨げる不燃物などの有無を確認するために必要となります。
排気管は僅かなドラフト効果があり、燃焼室を負圧にします。これは排気経路に漏れがない事が条件です。
排気管の素材は適切な材質を使用して下さい。例えばホーロー処理されたスチール管や耐熱シール（３５０℃）など。また管の外側は必ず断熱材にてカバーして下さい。

全てのセクションで点検口を設けることで点検、清掃が可能になります。
ストーブ１台に対して１つの排気管を設置して下さい。標準以外の方法で配管された場合、やメンテナンスを怠った場合はオーバーヒートによりストーブ部品に損傷を与える場合があります。この様な場合には保証されません。万が一煙突に火が着いた場合は直ちに消防局へご連絡下さい。





１０　アラーム表示

このストーブは７つのアラームを表示させるようプログラムされています。
アラーム表示の詳細は以下の通りです。

「AL　PE」：これはストーブが運転モード（表示は「WORK」の時）の時、何らかの原因で火が消えてしまい、排気温度が 70°C以下になった時表示されます。リセットする時は火力調整ボタン①をもう一度おして下さい。ペレットタンクに十分ペレットが入っているか確認して下さい。

「AL　AC」：これはストーブが着火モード（表示は「START」の時）の間に火が着かなかった。または着火が遅れた為に排気温度が 70°Cに達しなかった時、表示されます。リセットする場合は火力調整ボタン①を押して下さい。原因は燃焼皿やヒーター部の汚れ、ペレット不足が考えられます。

「AL　OP」：これは排気圧センサーが煙突トップや排気管の詰まりなどで排気が阻害された時に表示されます。リセットする場合は一旦消火してストーブが冷めたら背面のメインスイッチを切って、再び ON にして下さい。

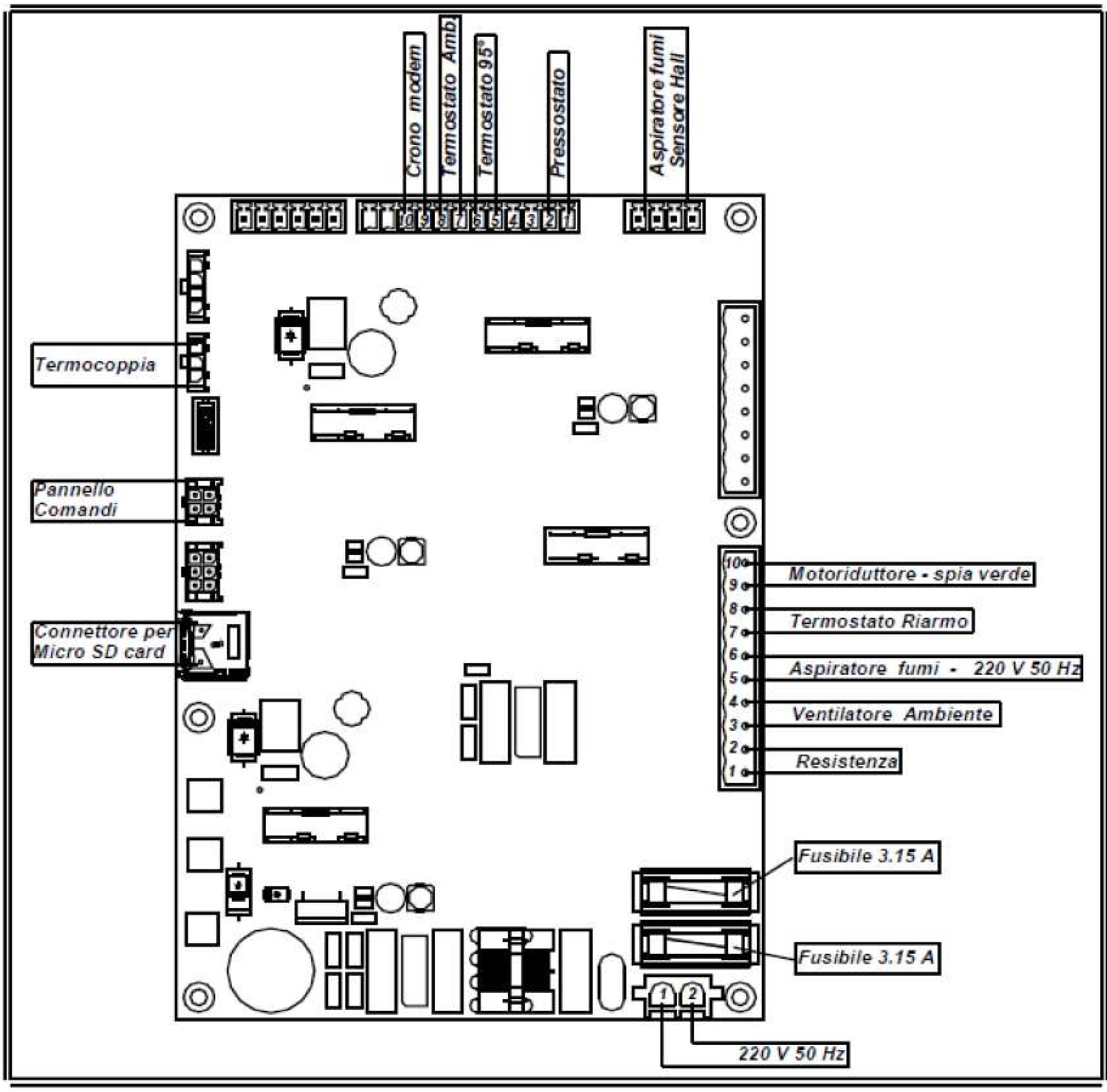
「AL　T max」：ストーブ内部が 125°C以上なった場合に表示されます。燃料は強制的にカットされます。ストーブが冷えたら（117°C以下）一旦背面のメインスイッチを切って再び ON にして下さい。その後背面の高温サーモスタット⑬のリセットボタンを押してリセットして下さい。メインスイッチが OFF の状態ではリセットされません。

「AL SMOKE TEMP SENSOR」
排気温度を計測する熱電対が損傷しています。

「AL　SMOKE　FAN」
排気ファンの回転が極端に遅くなっています。排気経路の T 管ぶの接続に問題がないか、また詰まりがないか確認して下さい。

「AL　SMOKE　RPM　SENSOR」
排気ファンのセンサーが回転を感知していません。排気ファンが止まっている状態です。

11 電気回路図



LEGENDA	KEY
Termocoppia	Thermocouple
Pannello Comandi	Control panel
Connettore per Micro SD card	Connector for Micro SD card
Crono modem	Chrono modem
Termostato Amb.	Room thermostat
Termostato 95°	Thermostat 95°C
Pressostato	Pressure switch
Aspiratore fumi sensore Hall	Hall sensor for smoke suction unit
Motoriduttore - spia verde	Ratio motor - green LED
Termostato riarmo	Reset thermostat
Aspiratore fumi 220V 50 Hz	Smoke suction unit 220V 50 Hz
Ventilatore Ambiente	Room fan
Resistenza	Heater
Fusibile 3.15 A	Fuse 3.15 A

１２　技術情報

１２．１　基本的構成部品と機能

<排気圧センサー>

これは必要な時にいつでもフィーダーモーターをスットプさせるセンサーです。主な原因は排気経路、排気管が塞がれた時に反応します。排気管出口までメッシュのフィルターなどは取り付けないで下さい。メッシュが詰まり排気圧力が発生しフィーダーモーターをストップさせます。

<フィーダーモーター>

このモーターはマイクロプロッセサにより制御され断続的に回転します。モーターは次の場合に運転を停止します。

- モーターが過熱となった時　・排気経路が塞がれ排気圧センサーが働いた時
- ペレットがなくなった時　・メインスイッチを切った時　・ストーブ内部が 125°Cになった時

<送風ファン>

送風ファンは排気温度が 70°Cになると自動的に運転を始めます。ペレットタンクが空になり火が消えて排気温度が 70°C以下になったりメインスイッチを切ると停止します。

<吸排気ファン>

着火ボタンを押すと運転を始めます。最初の 2 分間は排気経路のこもった排気を排出させるために最大パワーで運転します。その後自動制御運転となります。消火モードになっても排気の安全のため約 1 時間、または排気温度が 70°Cになった後 30 分間は運転します。停止するまでメインスイッチは切らないで下さい。

<排気温度センサー>

これはストーブを着火・消火を温度で排気温度で判断します。運転モードに切替えたり、同様に消火後排気ファンを停止させるためのセンサーですので非常に重要な機能です。

<ペレットタンクの温度センサー>

ペレットタンクおよびタンク付近が 85°Cになると送風ファンが強制的に最大レベルで運転します。

<125°C温度センサー>

ストーブ内部が 125°Cに達するとフィーダーモーターを停止します。過熱の原因を確認して対処して下さい。背面のリセットボタンを押すとリスタート出来ます。
（この時ストーブは十分冷めていなければなりません。）

<着火ヒーター>

着火モードで稼動します。燃焼皿の奥にあり約 800°Cの熱を発生させペレットへ着火させます。

１２．２　設置と操作についての大事なアドバイス

・本体から電源コードを抜き取って作業して下さい。電源を切るタイミングも大事です。排気が部屋へ漏れたりし危険です。燃焼中及び消火モード途中でスイッチをいきなり切らないで下さい。
・排気管出口は壁を水平に抜いただけの位置にしないで下さい。燃焼の排気は一般的な方法で保証しなければなりません。
・排気管を水平部分だけにしないで下さい。強風の影響を受け排気管に流れ込みストーブが停止します。
・ストーブ本体表面のエナメルのケイ酸塩の乾燥と焼きのために最初の 10 時間は最大火力で試運転して下さい。時間とともに燃焼室の表面は排気により腐食が進みますがこれは正常です。
・排気経路にメッシュの網や排気を阻害するようなものを装着しないで下さい。ペレットを燃焼させるのに必要な吸排気に影響を及ぼします。
・この取扱説明書を良く読んで下さい。
・ストーブは常に掃除して取扱説明書に従って燃焼状態をチェックして下さい。
・定期的に排気管を掃除して下さい。
・高品質のペレットを使用して下さい。品質が悪いと極端に暖房能力が低下します。
・排気管の設置基準は次の通りです。

表面をアルミ処理されたスチール管（厚さ 1.5 ㎜以上）、ステンレス管または 0.5mm以上のエナメル処理された管を使用して下さい。
排気管の最低高さ：４m以上
排気管の最高高さ：８m以下
5%の勾配横引長さ：0.5m以下
0.5m内のエルボ設置数：２個以下

実績または技術的根拠による場合はこの限りではありません。

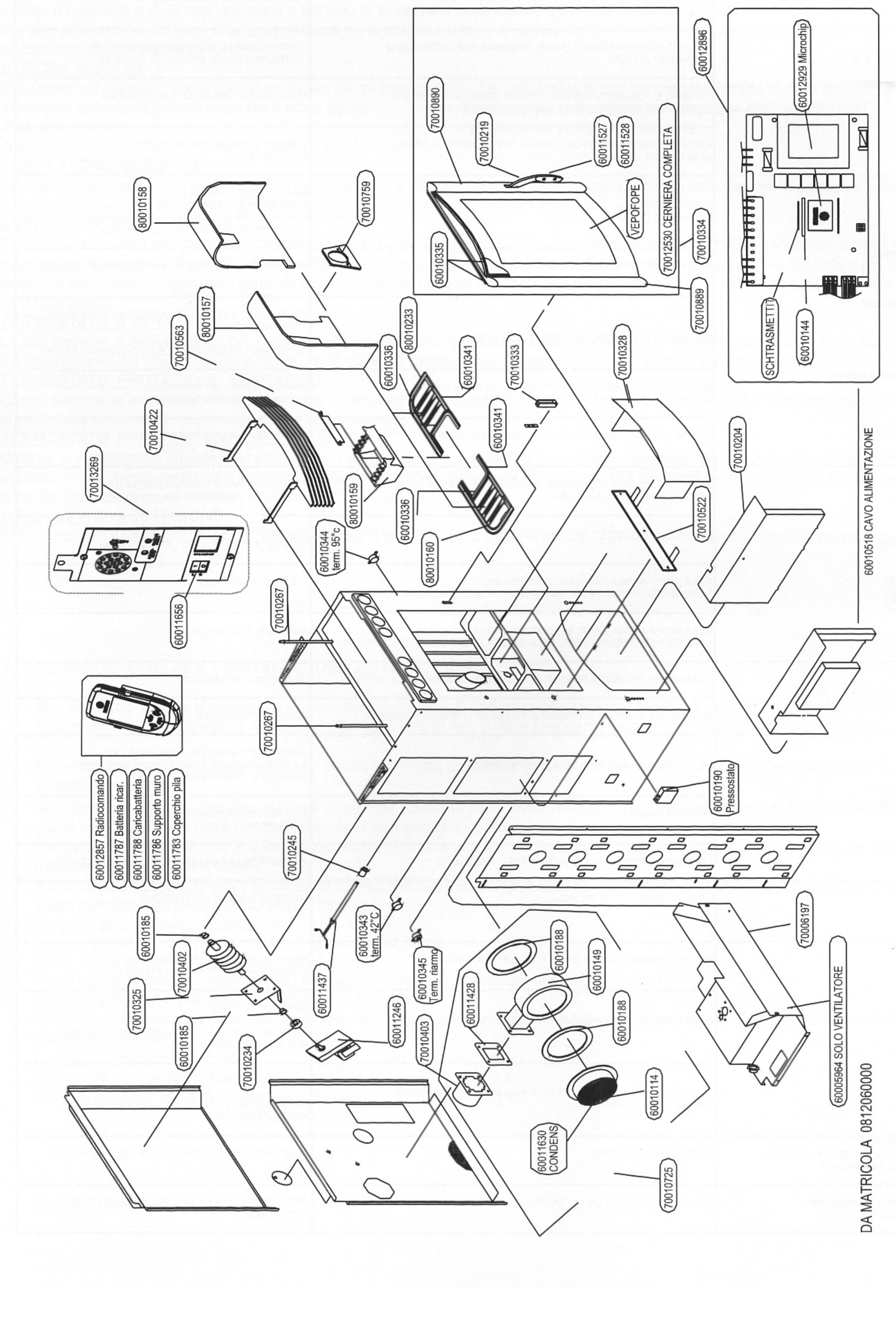
１２．３　トラブルシューティング

不具合	原因	対処
ペレットが落ちてこない	ペレットタンクが空です。 「AL　PE」表示	ペレットを補給して下さい。
	異物がタンク底に噛み込んでいます。 「AL　PE」表示	異物を取り除いて下さい。
	排気経路などに障害物があり、排気が阻害されています。「AL　OP」表示	汚れたり、詰まったりしていないか排気管を確認して下さい。
	排気管トップにメッシュなどを装着しる場合、排気が阻害されています。 「AL　OP」表示	阻害するものを取り除いて適切な部品へ交換して下さい。
	突然の突風により安全モードとなりました。「AL　OP」表示	一旦スイッチを切り、もう一度着火して下さい。
	ペレット供給モーターが動かない。	モーターのクリーニングまたは交換
	サーモスタットが作動し燃料供給モーターが停止した。 「AL　T　max」表示	送風ファンの故障の場合は交換。ファンの汚れや埃による詰りが原因の場合は掃除して下さい。ストーブが冷めたらリセットボタンを押して再スタート。
ペレットが燃焼皿へ溜まる	排気経路などに障害物があり、排気が阻害されている。	汚れたり、詰まったりしていないか排気管を確認して下さい。また阻害するものを取り除いて適切な部品へ交換
	着火ヒーターが汚れている。	頻繁に清掃して下さい。
	必要以上に溜まっている。	燃焼皿を綺麗にしてプログラム設定をＰ2 にして下さい。
	着火ヒーターの位置が正しくない。	位置を調整して下さい。
	着火ヒーターが上に上がり過ぎている。	位置を調整して下さい。
ストーブから煙が出る	初めて燃焼する時におきます。本体のシリコンコティーングが焼かれています。	完全に焼き終わる約 10 時間は試運転して下さい。（部屋は換気すること）
	排気管に漏れがある。	ガスケットなど適合しているか確認。
	25 分後に煙が出始めた場合：着火ヒーターが汚れていて着火が遅れた。	着火ヒーターを綺麗にして下さい。
	25 分後に煙が出始めた場合：オーガー内のペレットが無い	タンクにペレットを補充して下さい。
着火モード終了後 5 分で停止した	オーガー内にペレットが無く、着火が遅れた。「AL　AC」表示	タンクにペレットを補充して下さい。
	着火ヒーターが汚れている。 「AL　AC」表示	頻繁に清掃して下さい。
	42℃温度センサーの故障。 「AL　AC」表示	交換して下さい。
ガラスが煤で黒くなる	ペレットが燃焼皿に溜まりすぎている。	上記対処法参照
	炎制御板が正しく置かれていない。	正しい位置にして下さい。
	不明	まめに掃除して下さい。
送風が弱い	送風ファンが汚れています。	マニュアルに従って掃除して下さい。
着火できない	着火ヒーターの故障。「AL　AC」表示	交換して下さい。
ストーブが暖まらない	断続な稼動状態です。	火力レベルを上げてより長いサイクルに調整して下さい。
	部屋が広すぎる、壁が冷たい等	部屋を仕切って下さい。または火力レベルを長時間上げて下さい。
	天井が高い、または熱気が逃げる階段などがある。	
燃え残ったペレットがある	タンクが空になった。	燃焼皿を空にしてペレットを補充して下さい。
プログラムや時刻が記憶されない	本体のバックアップ電池切れ。 （CR1632）	電池を交換して下さい。

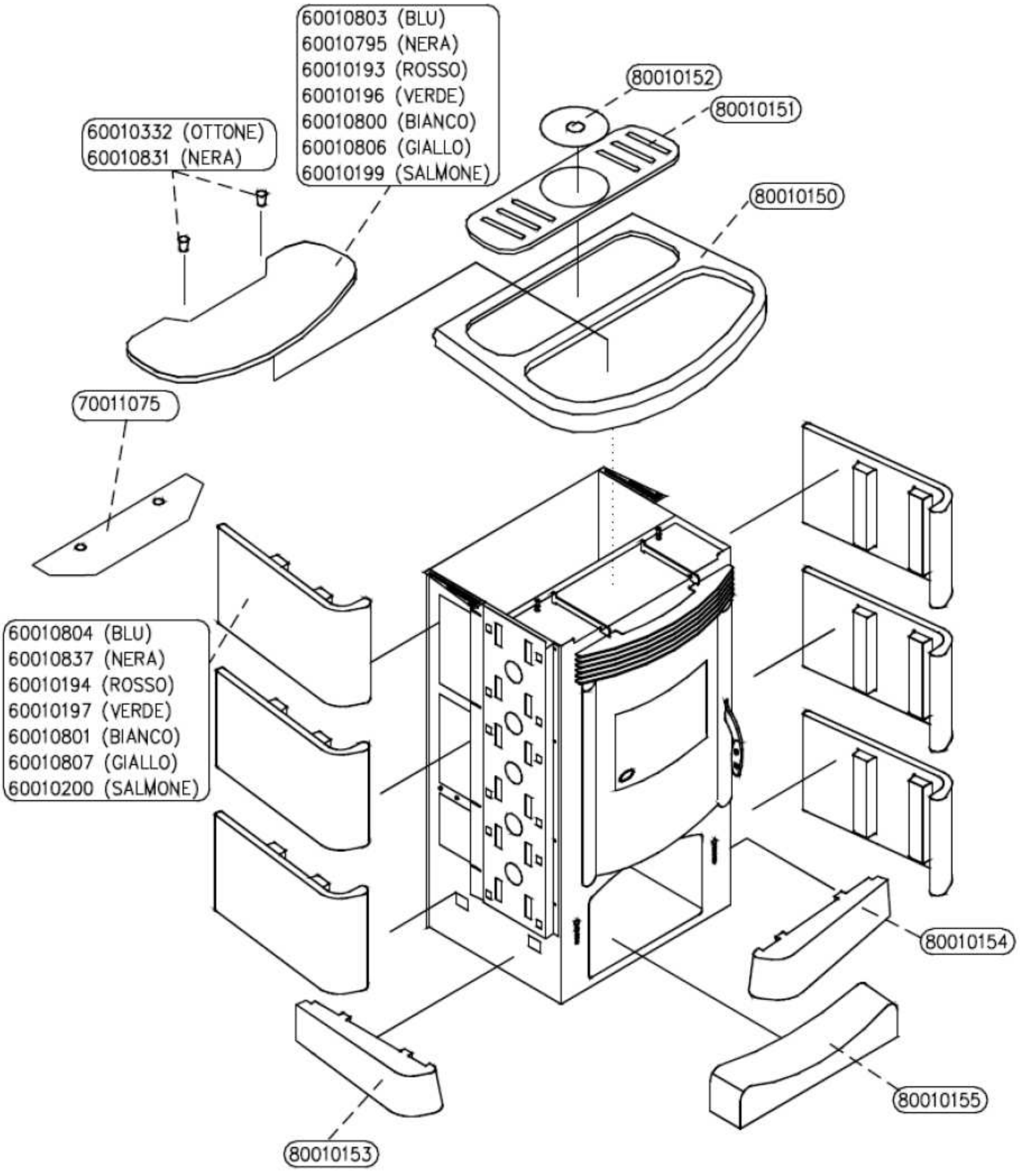
設定と違う運転モードになる。	サーモコンフォートリモコンの周波数が混信している。近くにもう一台ある。	リコモンの周波数を変えて下さい。

13. パーツリスト

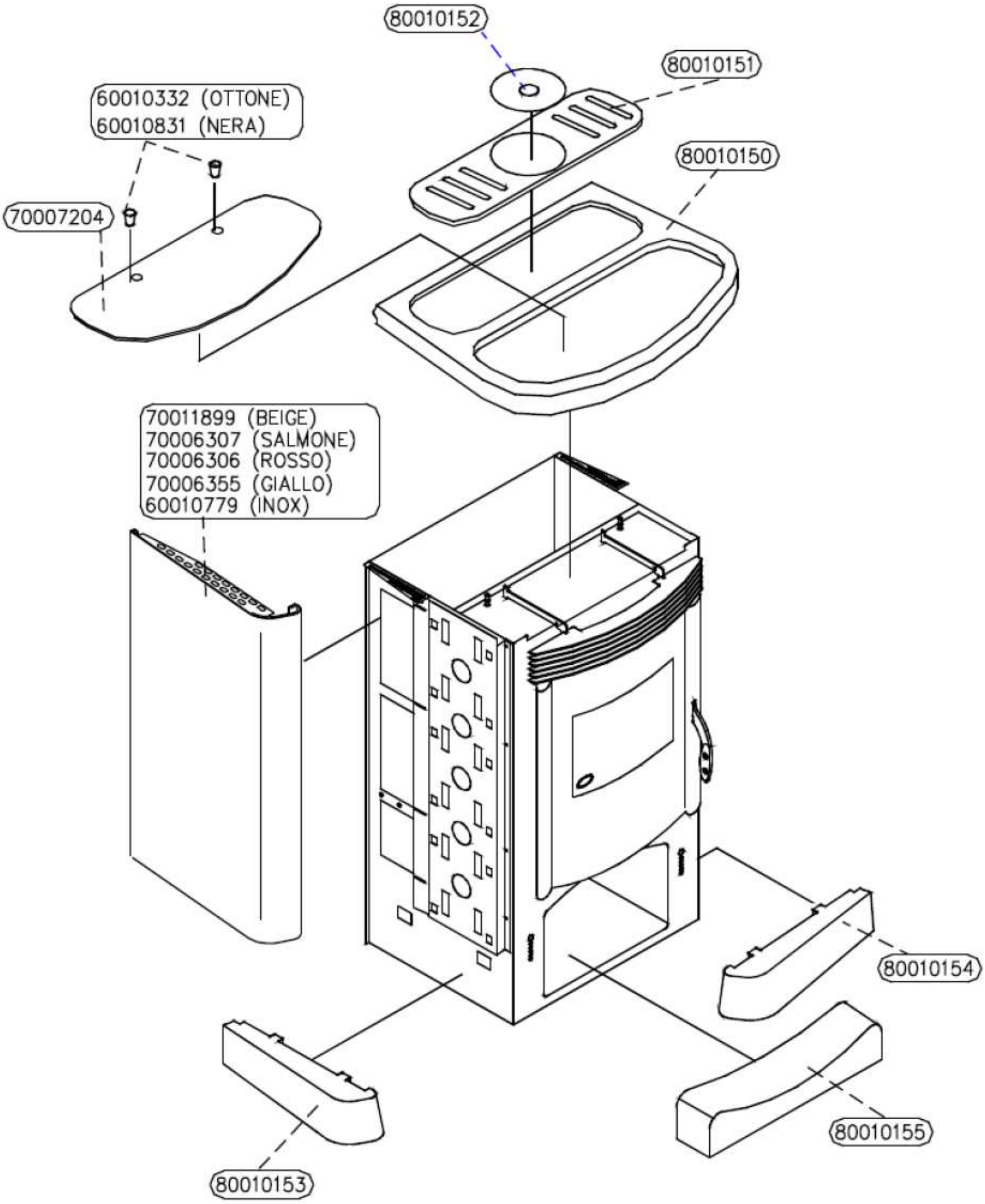
13.1 PARTI DI RICAMBIO ECOTHERM 6000 (PAG 1_3)



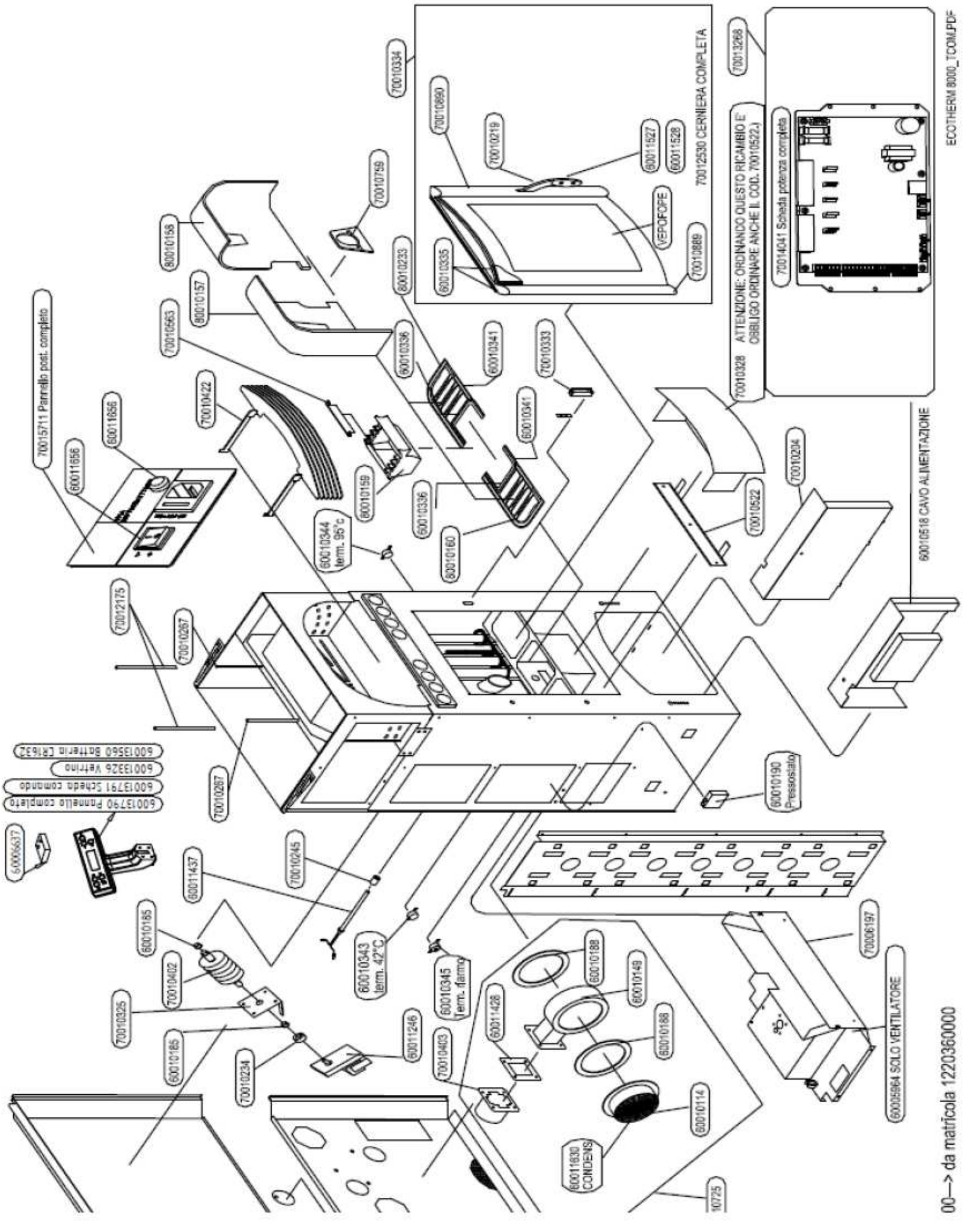
13.2. SPARE PARTS 6000 (PAGE 2/3)



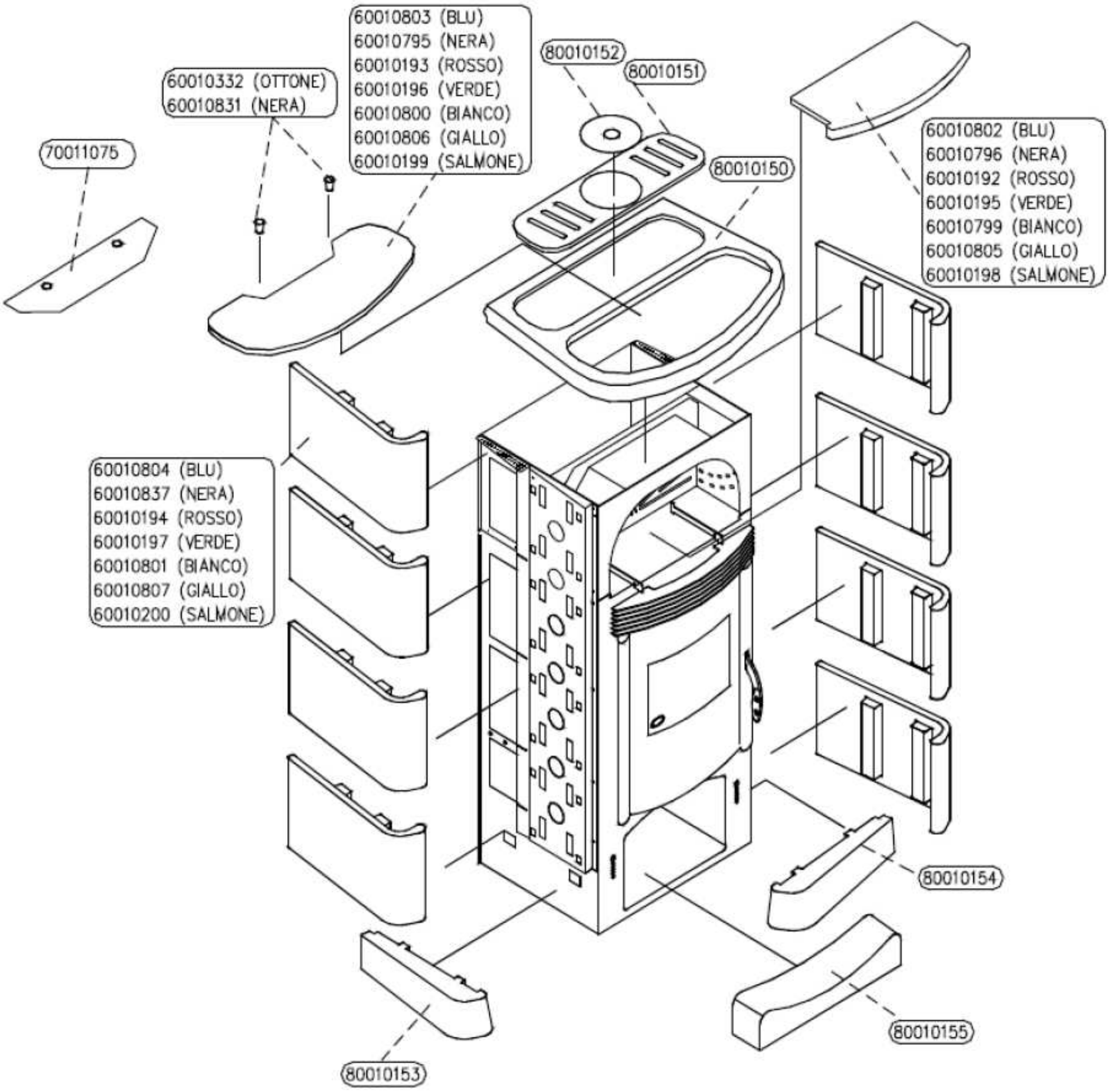
13.3. SPARE PARTS 6000 (PAGE 3/3)



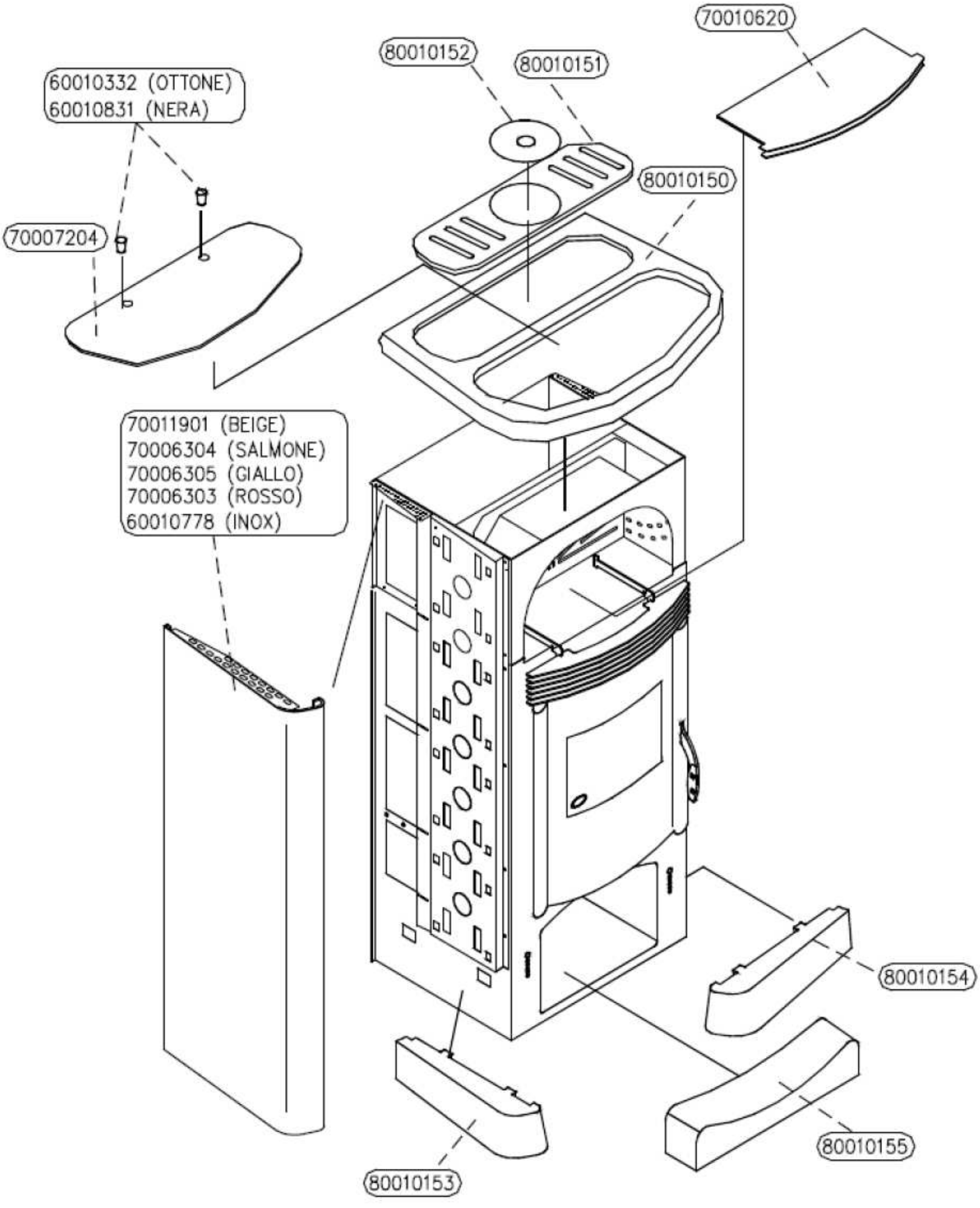
13.4. SPARE PARTS 8000 (PAGE 1/3)



13.5. SPARE PARTS 8000 (PAGE 2/3)



13.6. SPARE PARTS 8000 (PAGE 3/3)



保　証　書

この製品の保障期間はお買い上げ日から１年間です。

製造会社、輸入元および販売店は、エコサーモの全体の状態、製品、使用部品にいかなる欠陥もないことを保証します。
保証書を使う際は以下のことを行ってください。
－　領収書、銀行振り込み記録などにより、お買い上げ年月日を明示してください。
－　保障期間内に故障が生じたり、破損や欠陥が見つかった場合は、お客様のお名前、住所、電話番号、お買い上げ年月日、エコサーモの型番、トラブルの状況およびストーブの設置・運転状況を販売店にお知らせください。

販売店がある場合は欠陥または故障の状況を調べて、報告書を作成します。輸入元・販売店は故障の内容が保証書によってカバーできるかどうかを確認した上で、無料修理・交換を行います。

保証条件について
１）輸入元は、エコサーモの構成部すべてにおいて（消耗品を除く）、お買い上げ年月日から１年間保証します。
２）消耗品に関しては、不良品の場合を除いて、保証の対象にはなりません。よって、以下の部品は保証外になります：ガスケット、燃焼方向制御板、接続部品、グリル、ガラスドア、耐熱セラミックプレート。
３）保障期間内に破損もしくは欠陥が見つかった場合、販売代理店に点検を依頼してください。設置業者により不備が確認された場合、必要な部品交換などはすべて無償で行われます。
４）この保証書は、本製品をご使用のお客様にのみ有効です。権利の譲渡はできません。また、エコサーモの過熱しすぎによる損傷は、保証の対象外になります。ストーブの誤った設置や使い方および、温度によるストーブ表面への影響についても、保証の対象外になります。
５）保証金額は、本製品の購入代金を上限とします。製造会社・輸入元は、修理または欠陥部品の交換でお客様に補償します。
６）お客様のメンテナンス不足に起因する不具合、また設置工事ならびに設置工事不備による損害は保証の対象となりません。

注意.:　ご購入者は、保証書がいつから効力を発揮しているかを証明するために、お買い上げ年月日が明記された領収書あるいは送金レシートを必ず保持・保管してください。

お買い上げ年月日：
※コピーして輸入元へ送ってください。輸入元に連絡が無い場合は保証できません。

ストーブモデル：　エコサーモ６０００・８０００

お客様のお名前

ご住所

日付

お客様のサイン